

年 報

24
号「令和3
年度」

横浜市スポーツ医科学センター

横浜市スポーツ医科学センター年報(令和3年度)

目 次

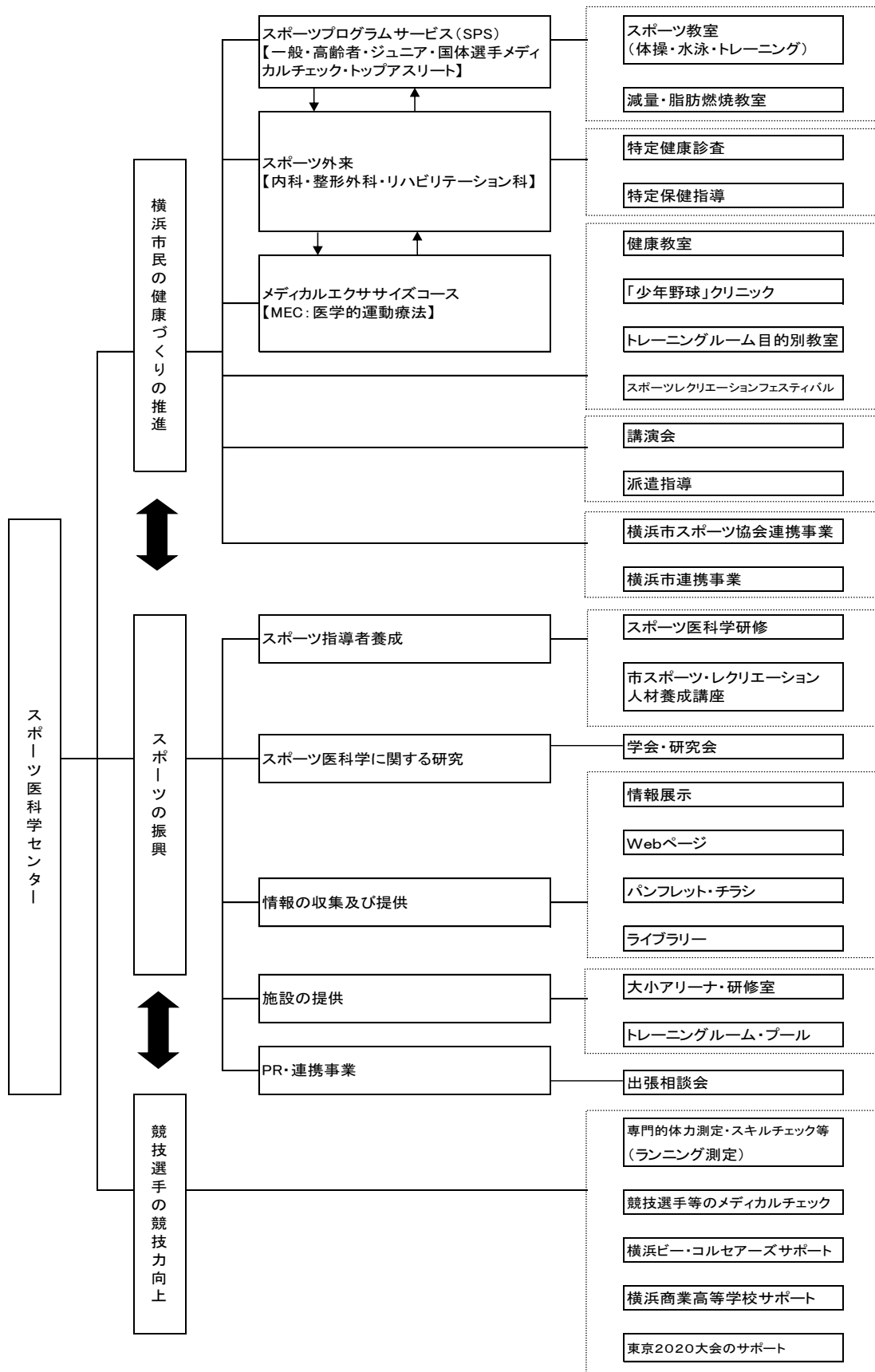
1	施設概要	1
2	事業体系図	2
3	事業概要	3
4	市民の健康づくり推進事業	9
	(1) スポーツプログラムサービス(SPS)	9
	(2) スポーツ外来	18
	(3) メディカルエクササイズコース(MEC)	28
	(4) スポーツ教室・健康教室・目的別教室	30
	(5) 健康に関する講演事業	37
	(6) 市からの委託事業	37
5	スポーツ振興事業	38
	(1) スポーツ指導者養成	38
	(2) スポーツ医科学に関する研究	39
	(3) 情報の収集及び提供	44
	(4) 施設の提供	46
	(5) スポーツ大会、イベントでのPR・連携事業	48
6	競技選手の競技力向上事業	49
	(1) 専門的体力測定・スキルチェック等	49
	(2) 「横浜ビー・コルセアーズ」サポート	52
	(3) 「横浜市立横浜商業高等学校スポーツマネジメント科」サポート	52
	(4) 「東京 2020 大会」サポート	54

1 施設概要

横浜市スポーツ医科学センターの概要

施設名称	横浜市スポーツ医科学センター
設置目的	スポーツ医科学に基づく、市民の健康づくりの推進、スポーツの振興及び競技選手の競技力の向上
所在地	横浜市港北区小机町 3302-5（日産スタジアム内 2 階東ゲート側）
延床面積	約 12,300 m ²
開設	平成 10 年 4 月 1 日
総工費	約 52 億円
運営費	819,028 千円（令和 3 年度実績）
利用者数	152,366 人（令和 3 年度実績）
開館時間	平日（月曜日～土曜日） 午前 9 時～午後 9 時 日曜日、祝日 午前 9 時～午後 5 時
休館日	【休館日】年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）、【施設点検日】4 月～6 月及び 9 月～12 月は第 3 火曜日、1 月～3 月は第 3・第 4 火曜日（祝日の場合は営業日とする）
実施事業	①スポーツプログラムサービス（SPS） ②スポーツ外来・リハビリテーション ③スポーツ指導者の養成・研修 ④スポーツ医科学研究 ⑤スポーツ医科学情報サービス ⑥施設の提供
主な機器	等速性筋力測定装置、バイオフィードバックトレーニング装置、三次元動作解析装置、床反力計測定システム、ハイスピードビデオ、ポリグラフシステム、磁気共鳴画像診断装置（MRI）、X 線画像診断装置（CR）、X 線骨密度測定装置、超音波診断装置、自動血球計数装置、生化学自動分析装置、多機能心電計
スタッフ	医師（内科・整形外科）、看護師、保健師、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、スポーツ科学員、運動指導員 等
主な施設	大アリーナ（大体育館）、小アリーナ（小体育館）、プール、トレーニングルーム、研修室、会議室、ライブラリー（図書館）、相談室、診療所（診察室、理学療法室、体力測定室、運動負荷試験室）等
運営	公益財団法人横浜市スポーツ協会（指定管理者）

横浜市スポーツ医科学センター事業の体系図



1 横浜市スポーツ医科学センターの役割

横浜市スポーツ医科学センターは、スポーツ医科学に基づいた市民の健康づくりの推進とスポーツの振興および競技選手の競技力の向上を目的とした施設として、平成10年4月に開設された。

当センターでは、多くの市民が安全で効果的にスポーツを行えるように、スポーツ医科学に関するさまざまなサービスを提供している。

健康な生活を送るため、スポーツを生涯にわたり楽しむため、競技者としてより強くなるため、などの目的に合わせて利用することができる。

(1) 横浜市民の健康づくりの推進

横浜市民一人ひとりが適切なスポーツ習慣をつけるよう支援する。

(2) スポーツの振興

健康づくりにつながるスポーツの振興に寄与する。

(3) 競技選手の競技力向上

スポーツ医科学に基づくトレーニング処方を作成して、アスリートをサポートする。

2 横浜市民の健康づくりの推進

(1) 健康状態や体力に応じたスポーツプログラムの提供：スポーツプログラムサービス（SPS）

生活・栄養・運動習慣についての問診、運動・スポーツに先立つメディカルチェック（医学的検査）と、体力の現状を探るフィットネステスト（体力測定）を行い、総合的に健康・体力に応じた運動（トレーニング）アドバイスやスポーツ医科学の最先端の知見に基づいた運動処方をその日のうちに提供する。

このスポーツプログラムサービス（SPS）には、市民の健康・体力の向上をサポートする「一般・高齢者 SPS」、ジュニアスポーツ選手向けの「ジュニア SPS」、競技選手の競技力向上をサポートするより専門的な「アスリート測定」がある。

(2) スポーツ外来

① 循環器内科・内科

一般的な内科系疾患の診療のほか、年々増加している生活習慣病（高血圧・高脂血症・糖尿病等）や循環器疾患（心筋梗塞・狭心症等）の諸症状改善や予防のために、内科のスポーツドクターが運動プログラムを処方する。また、スポーツ中に出現した内科系疾患や症状についても対応する。

② スポーツ整形外科・整形外科

小児から高齢者、一般市民からトップアスリートまで、スポーツによるケガや故障について、整形外科のスポーツドクターが診察・検査を行い、アスレティック・リハビリテーションを処方する。また、一般的な腰痛・肩こり・膝痛など日常生活におけるさまざまな整形外科的疾患に対して、運動プログラムを処方する。

③ リハビリテーション科

スポーツ選手の外傷（急性・慢性）や成長期の障害、整形外科疾患に対する運動療法・物理療法のほか、トレーニングやフォーム・スキルチェックなども実施し、円滑なスポーツ復帰と再発予防を目的としたアスレティック・リハビリテーションを行う。また、日常生活における整形外科疾患に対する運動療法・物理療法を行い、痛みの軽減・緩和、機能回復のためのリハビリテーションを行う。

(3) メディカルエクササイズコース（MEC：医学的運動療法）

内科的・整形外科的に何らかの疾患を抱え、積極的に運動することで改善が望める方々を対象として、医師（スポーツドクター）の運動処方に基づいて運動指導員が指導する、メディカルエクササイズコースを実施している。この MEC には、センター内のアリーナ（体育館）等で実施するアリーナコースと 25m 室内温水プールで水中運動療法や水泳などを行うプールコースがある。

(4) 教室事業

市民の方々に日常的にスポーツを実践していただくため、通年事業として実施している「スポーツ教室」や、年間を数期に分けて定期的を実施する「健康教室」、個人の改善目的に合わせた「目的別教室」などの各種スポーツ実践事業を実施している。

(5) 健康に関する講演会

横浜市内各区の福祉保健センターなどから依頼を受け、医師や管理栄養士などを派遣して講演会を実施し、市民の方々に健康に関する各種の情報を提供している。

(6) 連携事業

横浜市の委託事業等を実施している。

3 スポーツの振興

(1) 研修・講習会の実施

横浜市からの依頼を受けて、横浜市立中学校の運動部活動を担当する教諭や地域のスポーツ指導者に対して、安全にスポーツ活動を実践・指導していただくことを目的として「スポーツ医科学研修」や「スポーツ指導者の養成講座」などを実施し、スポーツ医科学に関する基礎知識を教授している。

(2) スポーツ医科学に関する研究

スポーツ医科学に関する各種の研究を行い、その結果を論文などにして発表している。

(3) 情報の収集及び提供

健康に関する各種情報を機関紙や Web ページなどで提供している。

(4) 施設の提供

施設貸出や個人利用を実施している。

(5) PR・連携事業

市民参加のイベント・大会等にスタッフが直接出向き、施設紹介及び理学療法士による個別無料相談を行っている。

4 競技選手の競技力向上

(1) 競技選手の専門的体力測定

プロスポーツチームや各種競技団体等の指導者・選手などからの要望に応じて、パフォーマンスを向上させるためのより専門的な体力測定を実施している。

(2) 競技選手等のメディカルチェック

神奈川県内の国体選抜選手やプロスポーツ選手・アマチュアスポーツのトップ選手などに対して、スポーツメディカルに関する各種の検査を実施している。

(3) 競技チームへのサポート

プロスポーツチーム（バスケットボール）に整形外科医師、メディカルトレーナー（理学療法士）が帯同し、練習から試合までの全般的なサポートを行っている。

(4) 学校へのサポート

横浜市立高等学校の教育内容及び競技力向上に向けた医科学サポートを行っている。

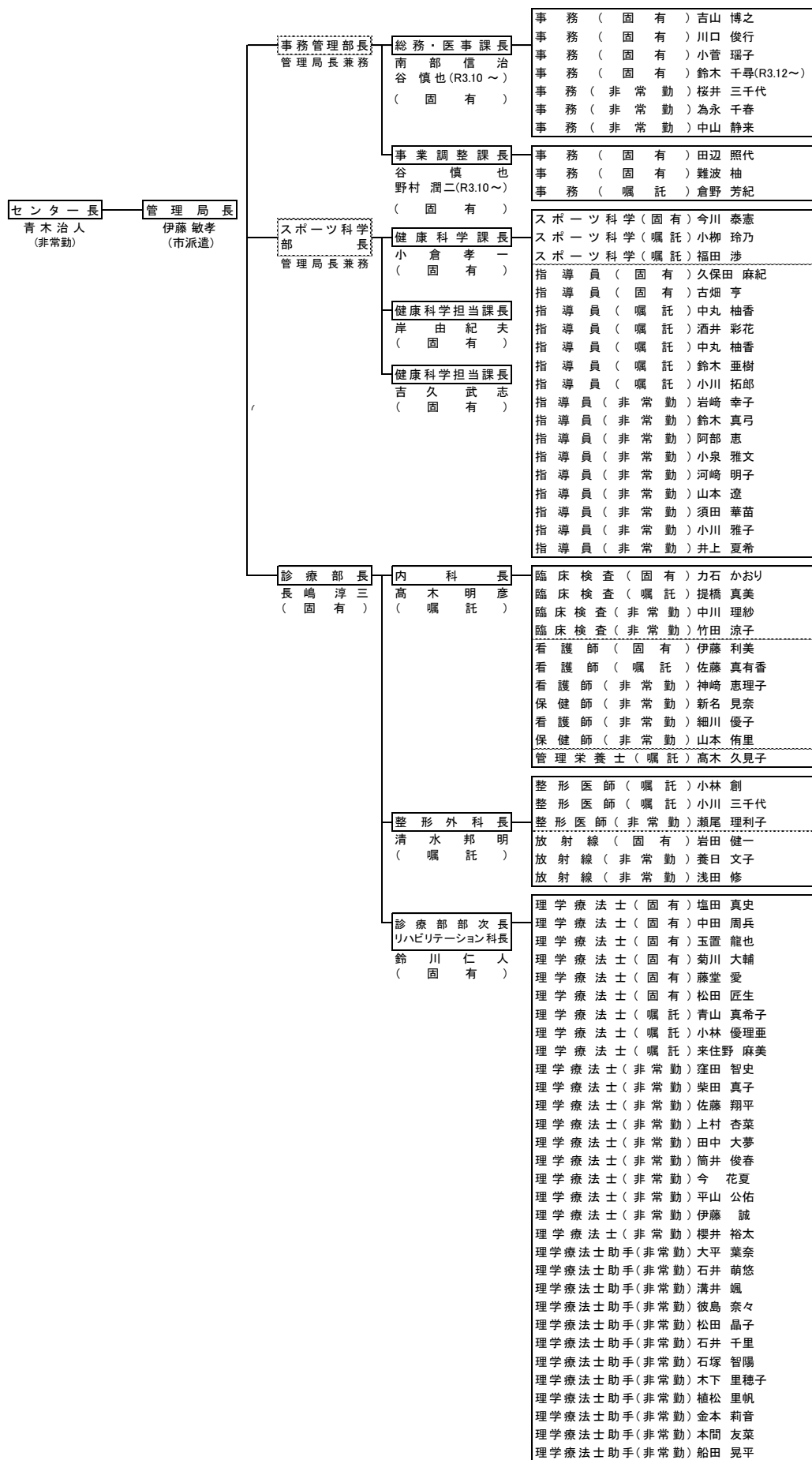
(5) 東京 2020 大会のサポート

東京オリンピック・パラリンピックの大会運営をスタッフとしてサポートする。

5 令和3年度の状況

- (1) 組織・職員構成図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・別表 1
- (2) 年度別収支状況（平成 29 年度～令和 3 年度）・・・・・・・・別表 2
- (3) 月別利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・別表 3
- (4) 年度別利用状況（平成 29 年度～令和 3 年度）・・・・・・・・別表 4

別表 1 組織・職員構成図

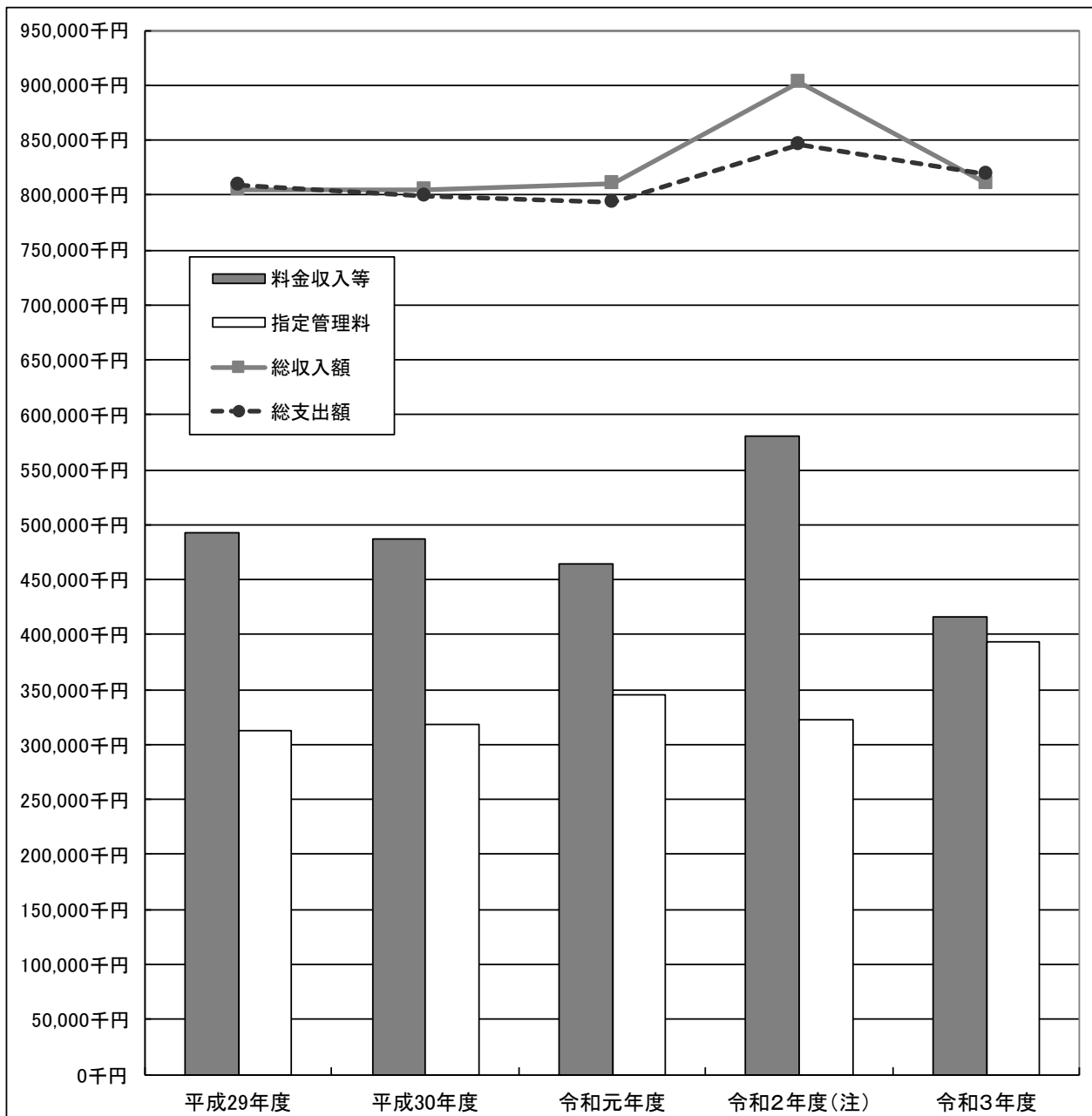


別表 2 年度別収支状況(平成 29 年度～令和 3 年度)

(税込)

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和 2 年度 (注)	令和 3 年度
料 金 収 入 等	492,620千円	486,453千円	464,554千円	579,959千円	416,579千円
指 定 管 理 料	312,482千円	318,660千円	345,676千円	322,675千円	393,411千円
総 収 入 額	805,102千円	805,113千円	810,230千円	902,634千円	809,990千円
総 支 出 額	809,010千円	799,472千円	794,020千円	845,133千円	819,028千円
収 支 差	△3,908千円	5,641千円	16,210千円	57,501千円	△9,038千円

(注) 令和2年度指定管理料には新型コロナウイルス感染症拡大防止対応で縮小した事業への運営支援金222,338千円を含む



別表 3 月別利用状況

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
SPS	87	105	177	129	98	69	128	74	114	110	43	98	1,232
一般	48	28	35	22	28	48	81	18	39	41	15	58	461
高齢者	35	21	13	17	30	21	44	39	37	18	23	23	321
ジュニア	4	42	80	1	30	—	3	4	38	51	5	17	275
国体 他	—	14	49	89	10	—	—	13	—	—	—	—	175
外来	6,263	6,480	6,693	4,122	4,246	5,855	6,593	6,148	6,180	5,757	5,477	6,749	70,563
内科	235	211	257	182	202	283	355	282	320	275	275	306	3,183
内科外来	216	187	231	166	168	218	208	164	249	185	180	214	2,386
内科自費	7	8	14	7	26	56	127	105	56	78	87	78	649
栄養相談	4	7	6	3	4	3	8	4	9	7	6	4	65
特定保健指導	8	9	6	6	4	6	12	9	6	5	2	10	83
整形外科	1,696	1,843	1,861	1,231	1,317	1,580	1,830	1,639	1,742	1,575	1,419	1,758	19,491
リハビリテーション科	3,598	3,682	3,832	2,235	2,201	3,227	3,609	3,434	3,371	3,150	3,080	3,853	39,272
メディカルエクササイズ(MEC)	734	744	743	474	526	765	799	793	747	757	703	832	8,617
施設利用	2,030	933	765	356	553	651	1,388	1,478	1,776	1,747	2,399	2,279	16,355
アリーナ	1,091	816	639	280	468	543	961	783	821	924	1,221	1,168	9,715
研修室・会議室	790	—	—	—	—	—	294	480	621	421	732	574	3,912
プール	—	—	—	—	—	—	—	23	48	78	90	106	345
トレーニングルーム	149	117	126	76	85	108	133	192	286	324	356	431	2,383
講座・講演(指導者養成)	—	—	127	—	18	—	—	—	—	39	—	—	184
指定管理事業 計	8,380	7,518	7,762	4,607	4,915	6,575	8,109	7,700	8,070	7,653	7,919	9,126	88,334
アスリート測定等	224	125	96	55	137	118	216	285	424	288	295	336	2,599
フォロー事業	5,078	5,090	5,183	2,645	3,547	5,191	5,401	5,066	4,338	4,659	4,804	5,168	56,170
教室・イベント事業	431	647	579	60	31	82	559	705	468	423	581	569	5,135
その他事業	—	40	—	—	—	8	—	—	50	—	—	30	128
自主事業 計	5,733	5,902	5,858	2,760	3,715	5,399	6,176	6,056	5,280	5,370	5,680	6,103	64,032
事業参加者合計	14,113	13,420	13,620	7,367	8,630	11,974	14,285	13,756	13,350	13,023	13,599	15,229	152,366
【参考】													
ライブラリー・展示室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ギャラリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

施設利用者総合計	14,113	13,420	13,620	7,367	8,630	11,974	14,285	13,756	13,350	13,023	13,599	15,229	152,366
----------	--------	--------	--------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

別表 4 年度別利用状況(平成 29 年度～令和3年度)

(単位:人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
SPS	2,046	2,488	1,595	884	1,232
一般	759	1,016	677	350	461
高齢者	438	410	365	291	321
ジュニア	624	783	311	228	275
国体 他	225	279	242	15	175
外来	88,754	89,568	82,768	58,981	70,563
内科	3,851	3,903	3,253	2,947	3,183
整形外科	21,390	20,771	20,268	17,206	19,491
リハビリテーション科	48,287	50,408	46,144	33,150	39,272
メディカルエクササイズ(MEC)	15,226	14,486	13,103	5,678	8,617
施設利用	122,880	138,462	138,641	13,083	16,355
アリーナ	33,567	37,004	38,114	8,287	9,715
研修室・会議室	48,309	48,263	52,894	3,739	3,912
プール	20,360	31,954	28,212	—	345
トレーニングルーム	20,644	21,241	19,421	1,057	2,383
講座・講演(指導者養成)	380	1,560	1,596	586	184
指定管理事業 計	214,060	232,078	224,600	73,534	88,334
アスリート/スキルチェック	6,174	4,034	2,974	2,458	2,599
フォロー(教室等)	64,004	61,310	55,696	38,614	56,170
講座・講演	15,453	14,469	10,190	2,803	5,135
その他事業	2,946	2,075	1,098	49	128
自主事業 計	88,577	81,888	69,958	43,924	64,032
事業参加者合計	302,637	313,966	294,558	117,458	152,366

ライブラリー・展示室	96,037	59,994	47,595	0	0
ギャラリー	70,784	111,419	126,666	0	0
合 計	61,077	69,618	174,261	0	0

※令和3年度は利用者数については新型コロナウイルス感染症対応に伴い入場制限を行ったため利用なし

施設利用者 総合計	363,714	383,584	468,819	117,458	152,366
-----------	---------	---------	---------	---------	---------

4 市民の健康づくり推進事業

(1) スポーツプログラムサービス(SPS)

スポーツプログラムサービス（以下 SPS）は、これから運動を行おうと考えている方や継続的に運動を行っている方を対象とし、問診・メディカルチェック・体力測定等により健康状態や体力などを総合的に把握した上で、各個人に運動実践のための具体的な資料やアドバイスを提供するものである。これは対象者により、次の3つに分類される。

①一般市民を対象としたもの（以下一般 SPS）

②ジュニアスポーツ選手（小学生～高校生）を対象としたもの（以下ジュニア SPS）

③競技選手の競技力向上を対象としたもの（以下アスリート測定）

一般およびジュニア SPS のメディカルチェック・体力測定項目は表 1 に示した。一般 SPS で実施している各項目の詳細については、参考として 13～16 ページに記載した。

一般 SPS はあらかじめ実施日を設定し、希望者からの予約を受付けている。また、団体利用については別途日程を調整している。ジュニア SPS は競技団体・学校・クラブチームなどの団体利用がほとんどであり、それぞれ日程を調整している。アスリート測定については、競技種目・競技レベル・目的などにより検査・測定項目が異なるため、依頼者と事前に内容や実施方法を協議した上で実施している。ジュニア・トップでも個人や少人数の場合には、効率化を図るため一般 SPS と一緒にして実施することもある。

表 1 SPS の検査・測定項目一覧

検査・測定項目		一般	ジュニア		
			高校生	中学生	小学生
メディカル チェック	尿検査	○	○	○	○
	血液検査	○	○	○	—
	X 線検査（胸部）	○	○※1	—	—
	呼吸機能検査	○	○	○	—
	安静時心電図検査	○	○	○	○
	内科診察	○	○	○	○
	運動負荷心電図検査	○	○	○	○
	骨量検査（踵骨）	○	○	○	○
	食事調査（問診表）	○	○	○	○
形態・ 体組成等	身長・体重・BMI	○	○	○	○
	体組成（体脂肪率）	○	○	○	○
	骨年齢（手部 X 線撮影）	—	—	○※1	○※1
	皮脂厚（上腕後・肩甲骨・腹部）	—	○	○	○
	肩峰幅・腸骨稜幅・転子点高	—	○	○	○
体力測定	大腿部筋力（膝伸展／屈曲）	○	○	○	○
	握力	○	○	○	○
	脚伸展パワー（両脚）	○	○	○	○
	ジャンプ力（垂直跳び）	—	○	○	○
	全身持久力（運動負荷心電図検査）	○	○	○	○
	全身反応時間	○	○	○	○
	片脚バランス	○	○	○	○
	体前屈	○	○	○	○
	その他（オプション項目）	—	○※2	○※2	○※2

凡例 ○：実施 —：実施しない

※1 年 1 回実施（同一年内に複数回利用の場合、2 回目以降は実施しない）

※2 必要に応じて実施（項目の詳細については割愛）

※3 呼吸機能検査は、新型コロナウイルス拡散防止のため、検査項目から外した。

表 2 月別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一 般	56	20	29	29	36	58	52	65	30	34	48	35	492
ジュニア	4	42	80	1	30	—	3	4	38	51	5	17	275
アスリート	27	28	77	99	39	33	67	18	11	29	4	33	465
合 計	87	90	186	129	105	91	122	87	79	114	57	85	1,232

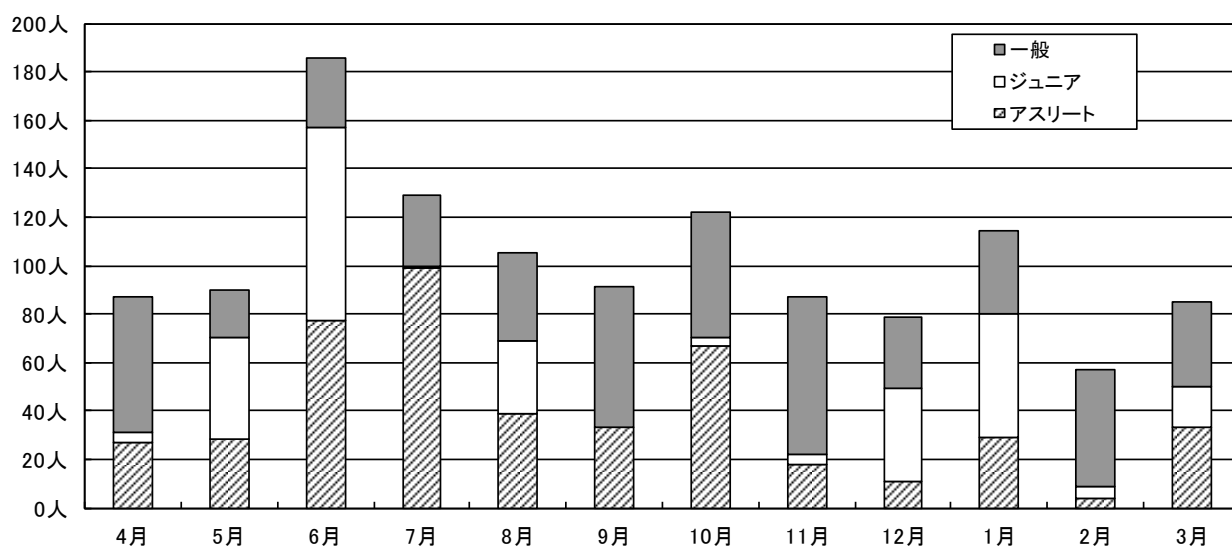


表 3 一般 SPS 年齢別・男女別利用者数

(単位：人)

	～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳～	計
男 性	1	—	3	2	4	5	13	8	9	13	32	38	18	27	173
女 性	1	1	—	1	3	3	11	20	25	29	50	61	36	24	265
合 計	2	1	3	3	7	8	24	28	34	42	82	99	54	51	438

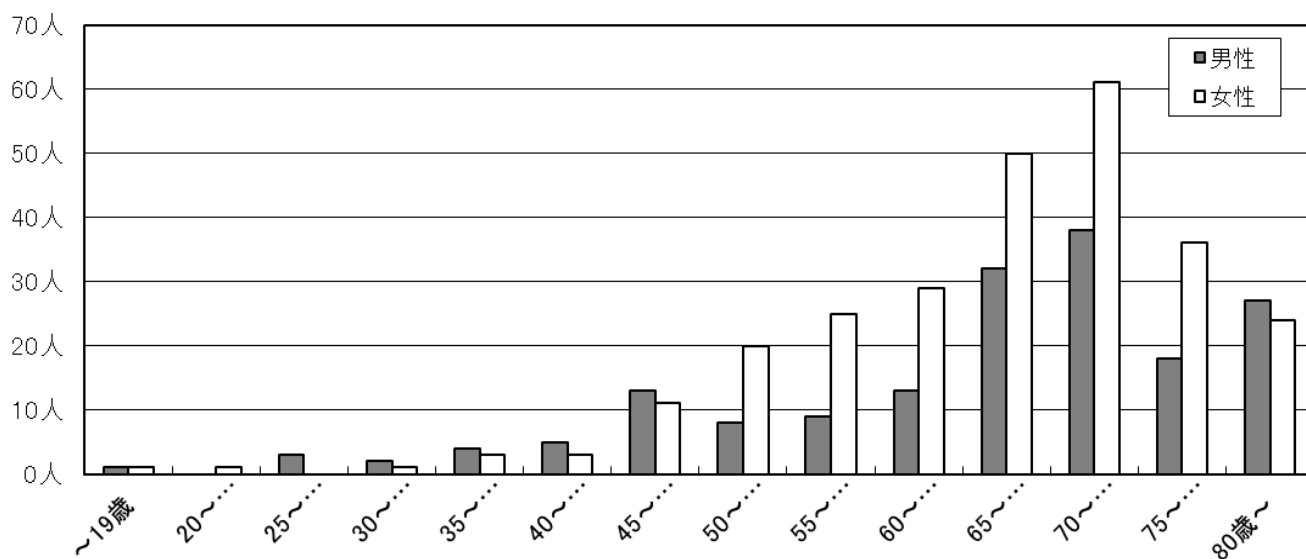


表 4 一般 SPS 曜日別利用者状況
個人のみ（団体利用除く）

	月曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
利用者数（人）	5	—	172	148	113
実施日数（日）	1	—	42	41	21
1日平均（人）	5.0	—	4.1	3.6	5.4
定員（人）	6	—	324	308	158
利用率（％）	83.3%	—	53.1%	48.1%	71.5%

全利用者（団体利用を含む）

	月曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
利用者数（人）	31	20	180	148	113
実施日数（日）	4	2	43	41	21
1日平均（人）	7.8	10.0	4.2	3.6	5.4
定員（人）	36	20	334	308	158
利用率（％）	86.1%	100.0%	53.9%	48.1%	71.5%

表 5 国体選手メディカルチェック月別利用者数

（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
—	14	49	89	10	—	—	13	—	—	—	—	175

表 6 ジュニア SPS 学年別・男女別利用者数

（単位：人）

	～小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
男性	4	5	3	24	29	19	55	39	25	203
女性				1	4	4	14	18	24	65
合計	4	5	3	25	33	23	69	57	49	268

	小学生	中学生	高校生
男性	12	72	119
女性	—	9	56
合計	12	81	175

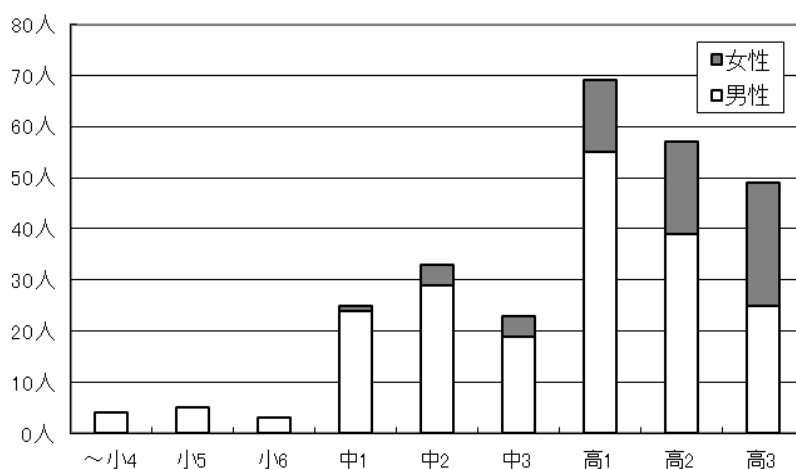


表7 ジュニア SPS 種目別利用者数

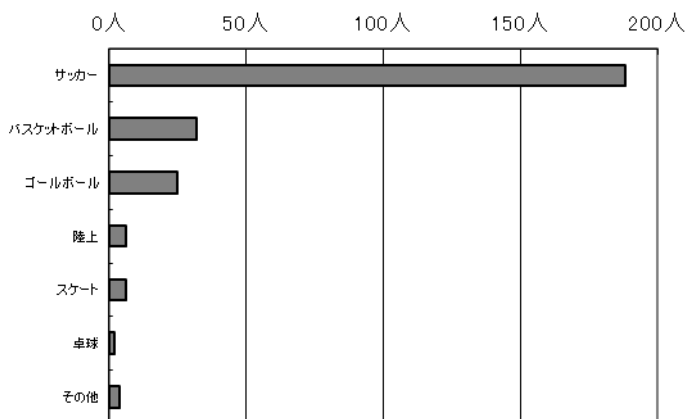
(単位：人)

		～小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
男性	サッカー	4	5	3	21	22	13	21	16	3	108
	野球	—	—	—	—	—	—	20	16	15	51
	陸上	—	—	—	3	7	5	—	—	—	15
	卓球	—	—	—	—	—	—	1	5	1	7
	水泳	—	—	—	—	—	—	6	—	—	6
	スケート	—	—	—	—	—	—	1	—	2	3
	ボート	—	—	—	—	—	—	1	1	1	3
	その他	—	—	—	—	—	—	3	1	2	6
女性	陸上	—	—	—	1	3	3	—	—	5	12
	水泳	—	—	—	—	—	1	3	3	2	9
	バスケットボール	—	—	—	—	—	—	1	5	2	8
	卓球	—	—	—	—	—	—	—	3	4	7
	サッカー	—	—	—	—	—	—	1	3	1	5
	ボート	—	—	—	—	—	—	3	—	1	4
	ソフトテニス	—	—	—	—	—	—	3	—	1	4
	その他	0	0	0	0	1	0	3	4	8	16

表8 アスリート測定種目別利用者数

(単位：人)

	男性	女性	合計
サッカー	187	1	188
バスケットボール	15	17	32
ゴールボール	12	13	25
陸上	—	6	6
スケート	3	3	6
卓球	2	—	2
その他	4	—	4
合計	223	40	263



※メディカルチェックのみの利用者は含まない

スポーツプログラムサービス(SPS)で実施される医学的検査項目の内容と説明

1. 尿・血液検査《小学生の血液検査はありません》

◇尿検査について

来院後に採尿しますので、当日朝からがまんすることはありません。約 50cc 必要です。

◇血液検査について

血液検査では、主に貧血の有無、肝障害、血清脂質、血糖、尿酸値を評価します。採血後はもまずに 5 分程しっかり抑えて下さい。腫れがみられるようであればおっしゃって下さい。また採血後皮下出血がみられることがあります数日で吸収されます。各採血項目の詳細は別項（右ページ：採血項目の詳細）をご覧ください。結果に記載されている基準値は成人のものです。判定欄の「L」は基準値未満を、「H」は基準値を越えることを意味します。

2. X 線検査《高校生以上は胸部レントゲン撮影、中学生以下は骨年齢》

◇胸部レントゲン撮影

胸部の正面の X 線撮影です。肺、心陰影を検査します。検査にご質問がある方は当日スタッフにお伝え下さい。

◇骨年齢

左手を撮影し、骨の成熟度を評価します。成長期では同じ暦年齢でも発育の度合いが異なります。骨から現在の発育状況の評価し、適切なトレーニング指導を行うために実施します。

※いずれの検査も放射線検査ですので被曝します。人間の太陽光を含めた自然環境による被曝量は年間 2,400 マイクロシーベルト (μSv) で、これ以外に許容されている年間被曝量は、一般の人で 1,000 μSv とされています（例外もあります）。検査における被曝は撮影部位と散乱線による撮影部位以外の被曝がありますが、撮影部位の被曝量は、胸部撮影の胸壁で約 100 μSv 、骨年齢の左手で 10 μSv です。撮影部位以外の被曝は、胸部レントゲン撮影で、胸と同じ高さの平面で胸壁からななめ前方 50cm の場所で 1 μSv 以下です。骨年齢では、0.1 μSv 以下です。生殖器や目など、撮影部位から上下に離れれば更に少なくなります。健康に障害を生じる量は 1 回で全身に 250,000 μSv (250mSv) 被曝した場合といわれており、今回の検査における被曝量は健康に支障のない程度と考えています。

3. 呼吸機能検査

肺活量と 1 秒量を測定し、%肺活量と 1 秒率を求めます。肺活量は、精一杯息を吸った後最大限にはいた息の量を、1 秒量は精一杯息を吸った後できるだけ速く息をはき、最初の 1 秒間に排出された量から求めます。

%肺活量は肺活量を予測値（性別・年齢・身長より算出される値）で除し、100 をかけることで求めます。1 秒率は 1 秒量を肺活量で除し、100 をかけた値で求めます。これにより肺の機能を評価します。

4. 安静時心電図, 運動負荷試験

心電図は、心臓の電気現象を体表から記録する検査です。これらの検査は、運動するにあつ

て心臓病がないか、またどの程度の運動能力があるかを調べるために行います。運動負荷試験は、安静時の心電図ではわからない心臓病を見つけるため、心電図、血圧を測定しながら運動（自転車エルゴメータ）を行います。運動中、気分が悪くなったり、もうできなくなったり、心電図や血圧に異常がみられましたら終了となります。専門医とスタッフが監視しながら安全に行いますが、検査中に不整脈や心筋梗塞が誘発されることがあります。これらは1万件に数件の割合と報告されています。

5. 食事調査

当日に提出していただく栄養問診から、1日の食事摂取量を概算します。また食品群別の摂取バランスや3大栄養素のバランスを算出します。

6. 骨量検査(音響的骨評価テスト)

踵の骨に超音波をあて、①超音波の伝わる速さと、②超音波の減衰度合いから骨の状態（丈夫さ、もろさ）を評価します。

採血項目の詳細

■尿検査		
蛋白		主に腎臓病をしらべます。
糖		糖尿病をしらべます。
潜血		泌尿器系の出血をしらべます。
ウロビリノーゲン		肝障害、胆道系の異常をしらべます。
■血液一般検査		
白血球数		細菌感染で増加します。異常低値、高値は血液疾患を疑わせます。
赤血球数		主に貧血の有無をみます。
ヘモグロビン		主に貧血の有無をみます。血色素とも呼ばれます。
ヘマトクリット		主に貧血の有無をみます。
血小板		止血作用があります。異常低値、高値は血液疾患を疑わせます。
■血液生化学検査		
栄養状態	総蛋白	栄養状態、肝臓の働きを意味します。
肝機能	総ビリルビン	胆道系の異常、肝障害を意味します。
	GOT	主に肝細胞の障害を意味します。また運動後では高値になることがあります。
	GPT	主に肝細胞の障害を意味します。
	LDH	ほぼ全身の細胞に含まれる酵素ですが、主に肝臓、肺、心臓などの障害をしらべます。運動後では高値になることがあります。
	ALP	主に胆道系の異常、肝障害を意味します。骨にも含まれるため成長期では高値になります。
	γ-GTP	胆道系の異常、肝障害を意味します。また、過栄養性脂肪肝、アルコール性肝障害をよく反映します。
筋肉の障害	CPK	主に筋肉に含まれる酵素です。異常高値は筋肉の障害を意味します。
高脂血症	中性脂肪	アルコール、カロリー過多で増加します。コレステロールとともに動脈硬化を進めます。
	総コレステロール	コレステロールの総和です。動脈硬化を進めます。
	HDL コレステロール	善玉コレステロールで動脈硬化を抑制します。
	LDL コレステロール	悪玉コレステロールで動脈硬化を進めます。
糖尿病	血糖	糖尿病をしらべます。
	ヘモグロビン A1c	1 か月の血糖の変動を表します。糖尿病の発見と経過をみるための検査です。
鉄	血清鉄	低値は鉄欠乏状態を表します。
腎機能	尿素窒素	腎臓の濾過機能をみます。
	クレアチニン	腎臓の濾過機能をみます。
高尿酸血症	尿酸	蛋白過多、アルコール過多で増加します。高値、変動が大きいと痛風を発症することがあります。
炎症反応	CRP	感染や炎症の存在を表します。

●体力測定(フィットネステスト)項目の説明

＜形態・体組成測定＞

身長、体重、体脂肪率、推定筋肉量を測定します。体脂肪率と推定筋肉量はマルチ周波数によるインピーダンス方式で測定します。そして、体脂肪率と推定筋肉量のバランスから体型判定を行います。尚、測定に使用している電流は非常に微弱で、刺激を受けることも、影響を与えることもありません。ただし、「心臓ペースメーカー」など体内に機器を装着されている方のご使用はできませんので、対象の方は事前に必ずその旨をお伝えください。



＜柔軟性＞

長座位から膝を伸ばした状態で前屈を行い、両手の指先の到達点を測定します。足底面を基準としています。尚、無理して行くと、腹筋が攣れたり、腰部を痛めたりすることが希に有りますのでご注意ください。



＜バランス(開眼片脚立ち)＞

片脚で20秒間立った時に、身体がどれだけ揺れるかを調べます。左右・前後方向の揺れの大きさを算出します。それらの値は小さいほど安定していることを示し、片脚立ちのバランスが良いことを意味します。



＜全身反応時間＞

光刺激に対してどれくらい早く反応できるかを調べます。ランプが光ってから足が地面から離れるまでの時間を測定します。光の刺激が目から脳へと伝わり、脳からの命令が筋肉に伝わる神経系の能力と動作自体が素早くできているかの両方を反映します。数値が小さいほど反応が良いことになります。



<握力>

握力計を用いて、物をつかむ・握る力の最大値を計測します。上半身の筋力評価として実施します。左右2回ずつ測定します。



<両脚伸展パワー>

足に固定したプレートを両脚でできる限り強く蹴り出し、そのときに発揮されたパワーを測定します。反動動作を使わない条件での、脚(主に股・膝関節)のパワー発揮能力を表します。プレートに加わった力が大きいほど、パワーも高くなります。パワーは体重で割った値で評価します。下半身のパワーが体重あたりどのくらいあるか評価し健脚度をチェックします。ただし、膝を痛めているなど測定に支障がある方は当日ご相談ください。



<動的筋力(右膝伸展・屈曲トルク)>

CYBEXというマシンを使って膝関節周りにどれくらいトルクを発揮できるのかを調べます。トルクというのはあるものを軸周りに回す能力です。伸展トルクは大腿の表側の筋肉が発揮した力を、屈曲トルクは大腿の裏側の筋肉が発揮した力を表します。トルクを体重で割った値でそれぞれの筋力を評価します。大腿の表側、裏側の筋力は多くの運動において必要な要素です。しっかり体重を支えられる筋力がバランスよく備わっているかチェックします。この測定機器はリハビリテーション用としても使用されているもので危険性は少ないと思われますが、測定は全力で行います。不安のある方はご相談ください。



<運動負荷テスト PWC75%HRmax>

運動負荷テストは運動時の心電図や血圧のチェックが第一の目的ですが、その際のペダル負荷と心拍数のデータから持久力の評価もあわせて行います。テストが始まるとペダル負荷が徐々に増え、それとともに心拍数も増加します。全身持久力に優れている人ほど負荷の増加に対する心拍数の増加は小さくて済みます。「PWC75%HRmax」とは心拍数が推定最高心拍数の75%(20歳の人で150拍/分、60歳の人で120拍/分)になるように自転車の負荷を調節した時の負荷の大きさです。評価は体重あたりの値で行い、数値が大きいほど持久力があるということになります。

ただし、不整脈がある場合や、一部の降圧剤・緑内障の点眼薬など、心拍数の増加に影響のある薬を使用している場合には、持久力が正しく評価されないことがあります。しかし、治療を継続していることの方が優先されますから、それらのお薬を使用している方は、当日も服薬して来所してください。



<最大歩行速度> ※2015年7月より追加しました。

11mの歩行路をできる限り速く歩行し、その中間部分の平均速度(m/分)を算出します。歩行の測定ですので、走らないようお気をつけください。(両足が同時に地面から離れる瞬間があると、走っていると判定されます。)

過度な大またや前傾姿勢など、普段の歩き方と極端に異なる歩き方をすると、転倒やケガに繋がることがありますのでご注意ください。

ジュニアは実施しません。



(2) スポーツ外来

当センターのスポーツ外来は、循環器内科・内科・スポーツ整形外科・整形外科・リハビリテーション科があり、診療等の内容は次のとおりである。

①内科

スポーツに関連した症状について専門的診療を実施する。また、心臓病や生活習慣病（高血圧・高脂血症・糖尿病等）の診断と治療を行う。治療には、運動療法を積極的に取り入れ、疾病の予防にも取り組む。

②整形外科

スポーツによるケガや故障について診察・検査を行い、アスレティック・リハビリテーションを処方する。また、肩こり・腰痛・膝痛など一般の整形外科的疾患にも運動療法を積極的に取り入れ、症状の緩和・消失を目指す。

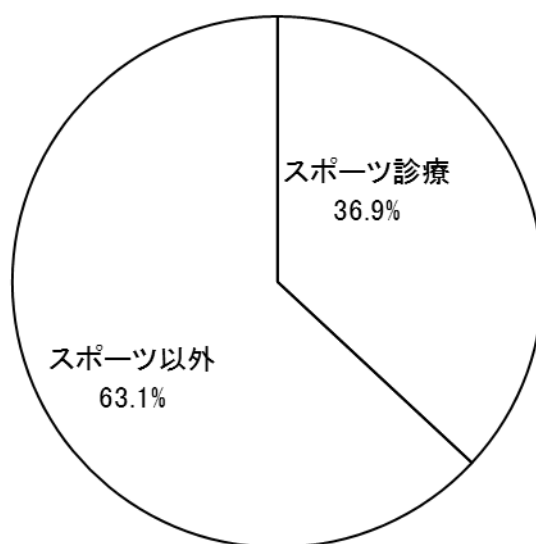
③リハビリテーション科

スポーツ選手の外傷（急性・慢性）や成長期の障害、整形外科疾患に対する運動療法・物理療法のほか、トレーニングやフォーム・スキルチェックなども実施し、円滑なスポーツ復帰と再発予防を目的としたアスレティック・リハビリテーションを行う。

表1 スポーツ診療の割合（内科・整形外科）

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
スポーツ診療	847	878	814	521	614	706	802	674	664	616	545	725	8,406
スポーツ以外	1,079	1,180	1,344	978	909	1,152	1,374	1,254	1,388	1,226	1,142	1,333	14,359
合計	1,926	2,058	2,158	1,499	1,523	1,858	2,176	1,928	2,052	1,842	1,687	2,058	22,765



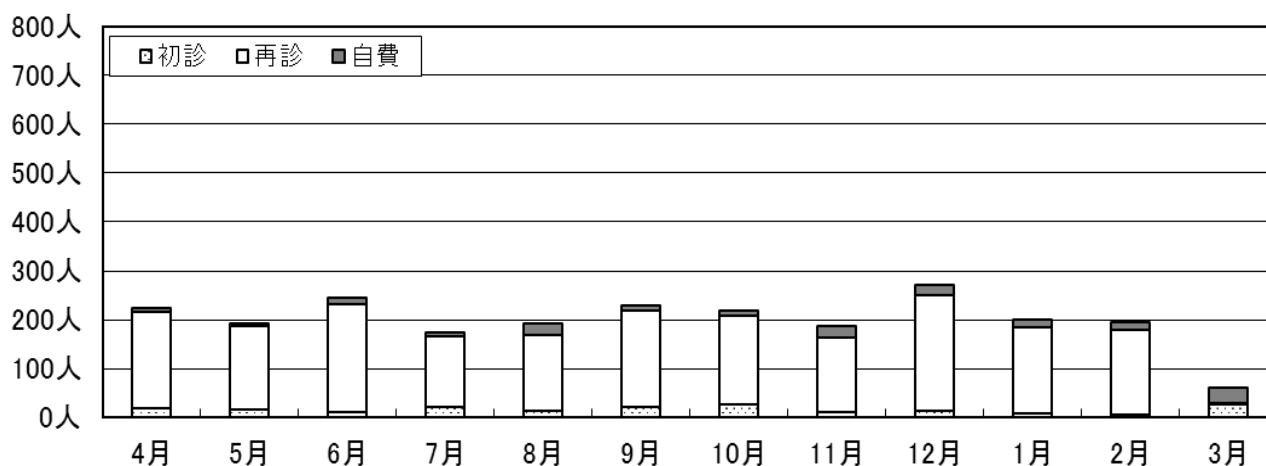
①内科

(ア) 内科

表 1 内科月別受診者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	18	17	12	22	14	23	26	12	14	9	7	26	200
再診	198	170	219	144	154	195	182	152	235	176	173	4	2,002
自費	7	5	14	7	24	12	12	23	22	16	15	30	187
合計	223	192	245	173	192	230	220	187	271	201	195	60	2,389



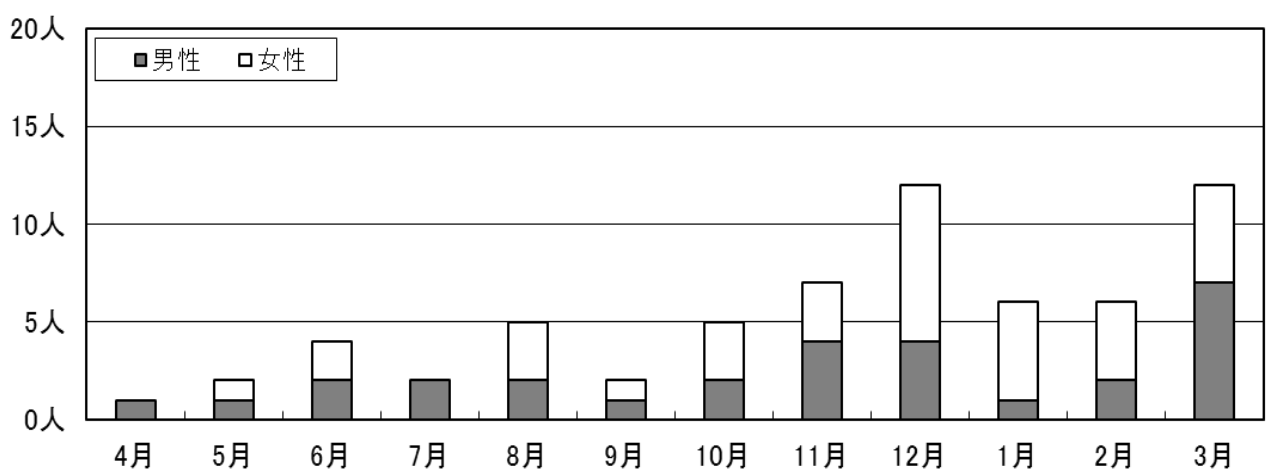
※初診は前回の受診から3か月以上経過した受診者を含む。ただし、特定疾患患者は除く。

※国体選手メディカルチェック、特定保健指導は含まない。

表 2 特定健康診査月別・男女別受診者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	1	1	2	2	2	1	2	4	4	1	2	7	29
女性	—	1	2	—	3	1	3	3	8	5	4	5	35
合計	1	2	4	2	5	2	5	7	12	6	6	12	64



(イ) 検査

表 1 月別検査総数

(単位：件)

				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査	一般検査	尿一般	外来・健診	52	27	52	31	35	36	29	51	58	44	29	57	501
			SPS	76	87	127	30	32	69	120	52	70	62	40	66	831
			国体	—	14	49	89	9	—	—	13	—	—	—	—	174
			減量教室	10	—	—	9	8	—	—	8	10	—	—	9	54
		尿沈渣		17	5	6	14	5	14	11	18	15	16	5	12	138
	小計			155	133	234	173	89	119	160	142	153	122	74	144	1,698
	血液一般検査	外来・健診	140	121	157	104	131	146	106	109	145	124	102	137	1,522	
		SPS	76	87	127	31	33	70	121	53	70	62	40	78	848	
		国体	—	14	49	89	9	—	—	13	—	—	—	—	174	
		減量教室	10	—	—	9	8	—	—	8	10	—	—	9	54	
	小計			226	222	333	233	181	216	227	183	225	186	142	224	2,598
	生化学検査	外来・健診	143	125	163	105	131	150	109	116	153	130	106	151	1,582	
		SPS	76	87	127	31	33	70	121	53	70	62	40	78	848	
		国体	—	14	49	89	9	—	—	13	—	—	—	—	174	
		減量教室	10	—	—	9	8	—	—	8	10	—	—	9	54	
	小計			229	226	339	234	181	220	230	190	233	192	146	238	2,658
外部委託			45	25	45	10	12	41	69	19	31	44	12	41	394	
検体検査小計				655	606	951	650	463	596	686	534	642	544	374	647	7,348
生理機能検査	安静時心電図検査	外来・健診	36	29	43	24	31	35	33	46	42	37	30	48	434	
		SPS	75	91	98	33	34	70	94	53	70	62	41	78	799	
		国体	—	14	49	89	10	—	—	13	—	—	—	—	175	
		減量教室	10	—	—	—	8	—	—	—	10	—	—	—	28	
	小計			121	134	190	146	83	105	127	112	122	99	71	126	1,436
	エルゴメータ負荷試験	外来・健診	9	5	3	7	6	9	12	10	10	3	8	4	86	
		SPS	50	85	98	26	23	39	62	45	60	33	38	43	602	
		国体	—	2	3	1	2	—	—	—	—	—	—	—	8	
		減量教室	10	—	—	9	8	—	—	8	10	—	—	9	54	
	小計			69	92	104	43	39	48	74	63	80	36	46	56	750
	心臓超音波検査	外来・健診	8	6	2	2	2	2	4	3	7	6	3	3	48	
		SPS	1	14	—	7	3	3	2	1	4	2	—	—	37	
		国体	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	小計			9	20	2	9	5	5	6	4	11	8	3	3	85
	頸動脈超音波検査			4	1	3	—	1	3	4	1	1	6	2	5	31
	ホルター心電図検査			—	2	1	—	1	1	2	1	2	2	—	2	14
	マスター負荷心電図			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	呼吸機能検査*	外来・健診	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		SPS	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生理機能検査小計				203	249	300	198	129	162	213	181	216	151	122	192	2,316
合計				858	855	1,251	848	592	758	899	715	858	695	496	839	9,664

*呼吸機能検査は、COVID-19感染予防のため中止とした。

表 2 国体健診月別人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動負荷試験あり	—	2	3	1	2	—	—	—	—	—	—	—	8
運動負荷試験なし	—	12	46	88	8	—	—	13	—	—	—	—	167
合計	—	14	49	89	10	—	—	13	—	—	—	—	175

*国民体育大会神奈川県代表選手の健康管理事業である。

*運動負荷試験は、自転車エルゴメータにて実施した。また、今年度より 35 歳以上の選手のみを対象に、3 年に一度実施することになった。

*COVID-19 の影響で、夏季三重国体は中止となった。

表 3 特定健康診査月別人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
横浜市国民健康保険組合	1	2	4	2	5	2	5	7	11	6	5	9	59
各種社会保険組合	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	2	3
その他国民健康保険組合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	2
合計	1	2	4	2	5	2	5	7	12	6	6	12	64

表 4 減量・脂肪燃焼教室月別人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事前測定	10	—	—	—	8	—	—	—	10	—	—	—	28
効果測定	—	—	—	9	—	—	—	8	—	—	—	9	26
合計	10	—	—	9	8	—	—	8	10	—	—	9	54

(ウ) 栄養

■SPS における栄養相談数

事前に郵送した食生活問診票を SPS 当日に回収し分析。その結果を印刷して当日に配布し、参加者全員へ 30 分程度の栄養講話で情報提供を行う。その後、希望者に対して個別栄養相談を 15 分程度行う。

表 1 食生活問診票ありの SPS 人数

		(単位：人)												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般	男性	5	2	3	4	5	7	9	5	9	5	3	9	66
	女性	15	12	4	8	3	9	10	9	19	7	8	16	120
高齢	男性	12	10	8	2	4	4	18	14	15	4	9	10	110
	女性	14	11	5	15	8	16	20	24	22	13	14	13	175
ジュニア	男性	—	20	44	1	1	—	3	—	2	1	3	1	76
	女性	3	—	34	—	6	—	—	—	—	2	—	3	48
合計	男性	17	32	55	7	10	11	30	19	26	10	15	20	252
	女性	32	23	43	23	17	25	30	33	41	22	22	32	343

表 2 SPS 個別栄養相談数及び SPS 実施数に対する割合 (%)

		(単位：人)												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性		8	10	9	5	8	8	16	4	10	8	6	7	99
女性		14	17	6	8	12	17	19	12	14	12	11	14	156
合計		22	27	15	13	20	25	35	16	24	20	17	21	255
割合 (%)		44.9%	49.1%	15.3%	43.3%	74.1%	69.4%	58.3%	30.8%	35.8%	62.5%	45.9%	40.4%	42.9%

■内科外来依頼の栄養相談数

1 日分の食事記録をもとに相談を行う。期間は 3 か月で月 1 回 30 分行った。

表 3 月別受診者数及び初診・再診者数

														(単位:人)	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
男性	初診	1	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	3	0.3
	再診	1	2	2	—	2	1	1	2	1	1	1	2	16	1.3
女性	初診	—	—	—	—	—	1	2	1	1	—	1	3	9	0.8
	再診	4	4	5	3	3	3	7	1	7	6	4	3	50	4.2
合計		6	6	7	4	5	5	10	4	10	7	6	8	78	6.5

表 4 年齢別受診者数

		(単位：人)								
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男性		—	2	—	—	6	10	1	—	19
女性		—	—	—	2	11	23	23	—	59
合計		—	2	—	2	17	33	24	—	78

表 5 疾患別食事療法集計

									(単位：人)	
	高脂血症	糖尿病	高血圧	高脂血症 糖尿病	高脂血症 高血圧	高脂血症 糖尿病 高血圧	高血圧 糖尿病	その他	合計	男女比
要減量（男性）	6	—	—	—	—	10	—	1	17	21.8%
要減量（女性）	23	1	1	5	8	3	—	3	44	56.4%
比率	47.5%	1.6%	1.6%	8.2%	13.1%	21.3%	0.0%	6.6%	100.0%	78.2%
減量不要（男性）	—	—	—	—	—	—	—	2	2	2.6%
減量不要（女性）	6	2	6	—	—	—	—	1	15	19.2%
比率	35.3%	11.8%	35.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	100%	21.8%
合計	35	3	7	5	8	13	—	7	78	100%

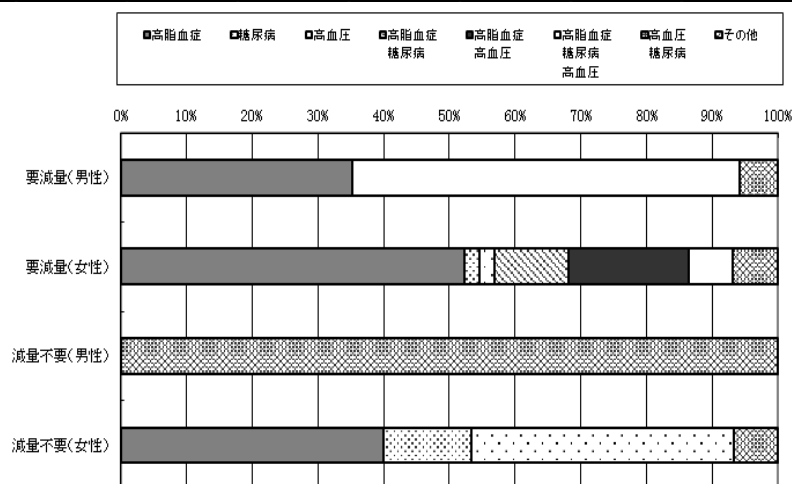
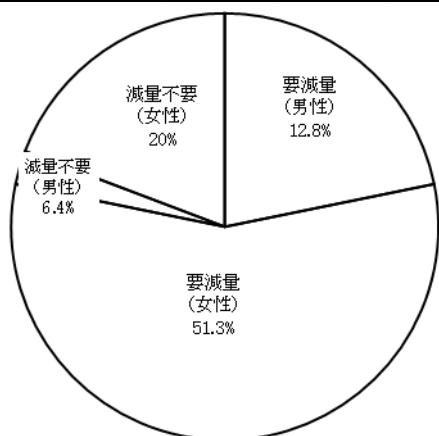


表 6 特定保健指導月別受診者数

														(単位：人)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
積極的 支援	男性	—	—	2	1	1	1	—	—	1	—	1	—	7
	女性	—	1	2	—	—	1	3	1	1	—	—	2	11
動機付け 支援	男性	4	4	—	—	—	2	6	7	3	1	1	6	34
	女性	4	4	2	4	3	2	3	1	1	4	—	1	29
合計		8	9	6	5	4	6	12	9	6	5	2	9	81

■その他

表 7 スポーツ選手個別栄養相談数

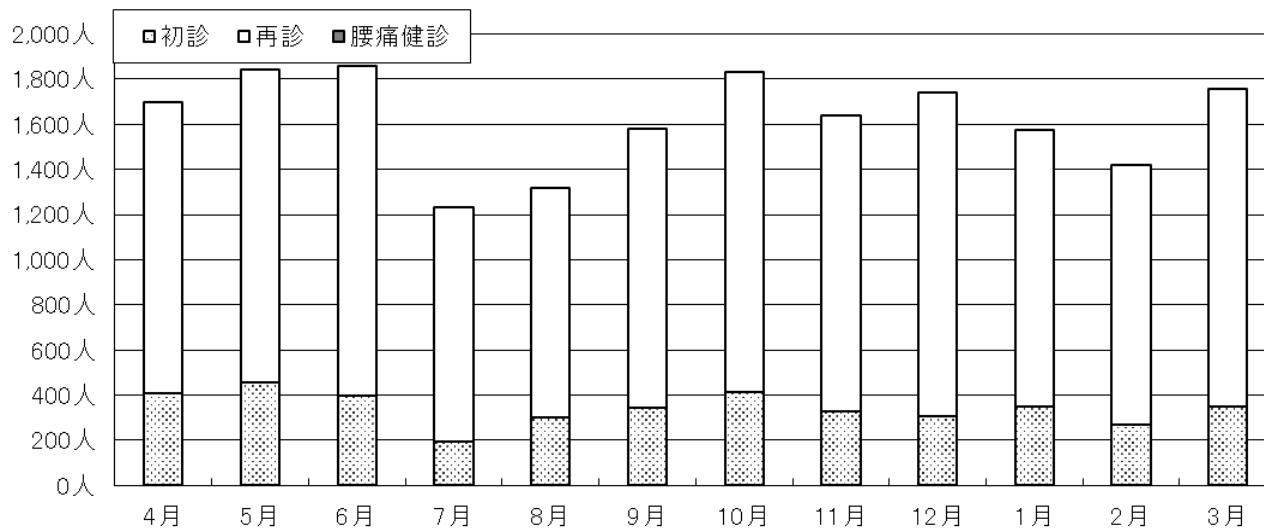
			(単位：人)
	男性	女性	合計
神奈川県スケート連盟（フィギュアスケート）	—	—	—
実業団女子バスケットボール選手	—	—	—
横浜市空手連盟（空手 Jr）	0	0	—
プロゴルフ選手	0	0	—

②整形外科
(ア) 整形外科

表 1 整形外科月別受診者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	407	457	397	192	301	341	414	328	308	349	268	347	4,109
再診	1,289	1,386	1,464	1,039	1,016	1,239	1,416	1,311	1,434	1,226	1,151	1,411	15,382
腰痛健診	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	1,696	1,843	1,861	1,231	1,317	1,580	1,830	1,639	1,742	1,575	1,419	1,758	19,491



※初診は前回の受診からおおよそ3か月以上経過した受診者を含む。

(イ) 放射線

表 1 磁気共鳴画像 (MRI) 検査数

(単位: 件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
頭・頸部	4	—	1	—	1	1	—	2	2	1	7	1	20
MRA	1	1	—	1	—	1	1	—	—	2	—	2	9
頸椎	1	2	—	2	1	1	—	1	2	—	2	4	16
胸椎	1	1	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	6
腰仙椎	25	21	18	17	17	19	23	17	17	9	10	21	214
脊椎合計	27	24	18	19	18	20	23	18	20	10	13	26	236
胸部	—	—	—	—	2	1	1	—	—	1	—	1	6
腹部	—	—	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	3
骨盤	—	1	3	4	2	2	11	2	—	2	—	1	28
股関節	6	4	9	4	4	7	8	5	2	5	3	12	69
肩関節	18	14	21	7	10	11	8	8	14	9	5	11	136
躯幹合計	24	19	33	15	18	21	30	16	16	17	8	25	242
肘関節	5	4	11	4	4	6	3	4	7	4	5	7	64
手関節	2	1	1	—	2	4	2	2	3	3	—	4	24
膝関節	60	79	66	35	50	58	80	63	61	80	56	63	751
足関節	5	4	4	4	7	4	1	5	3	5	6	4	52
上・下肢	16	28	13	10	19	20	23	12	12	12	12	29	206
四肢合計	88	116	95	53	82	92	109	86	86	104	79	107	1,097
総件数	144	160	147	88	119	135	163	122	124	134	107	161	1,604
撮像件数	1,040	1,164	1,106	639	867	984	1,167	886	917	990	789	1,179	11,728
総人数	143	156	147	88	118	134	163	122	122	133	106	159	1,591

※総件数は同日 2 部位検査を含むため延べ数である。

※MRA は主に頭部(脳)である。頸部、全下肢含む。

図 1 磁気共鳴画像 (MRI) 検査 部位別件数・割合

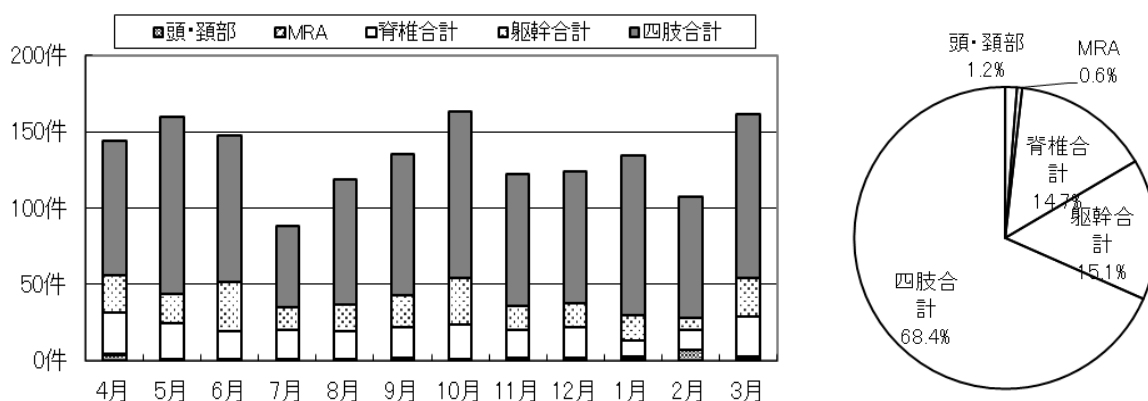


表2 X線一般撮影（CR）検査数

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
SPS胸部・手部	82	86	99	30	56	69	90	51	95	89	42	80	869
頸椎	33	27	21	14	16	19	34	36	20	28	23	28	299
胸・腰仙椎	111	137	106	70	77	104	106	92	88	128	73	100	1,192
脊椎合計	144	164	127	84	93	123	140	128	108	156	96	128	1,491
頭部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
胸部	21	21	26	13	11	23	15	29	29	25	15	22	250
腹部	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
骨盤・股関節	108	86	118	54	71	81	116	74	68	83	67	87	1,013
躯幹合計	129	107	144	68	82	104	131	103	97	108	82	110	1,265
肩関節	76	76	79	36	72	64	53	53	62	57	50	60	738
肘関節	74	52	79	28	39	52	52	27	53	37	35	54	582
手関節	24	20	32	24	29	19	32	21	24	30	21	26	302
膝関節	262	291	289	142	225	249	319	284	253	359	195	244	3,112
足関節	71	79	66	35	52	57	76	64	75	114	34	89	812
上・下肢	194	218	185	99	137	119	182	151	168	187	134	154	1,928
四肢合計	701	736	730	364	554	560	714	600	635	784	469	627	7,474
部位件数	1,056	1,093	1,100	546	785	856	1,075	882	935	1,137	689	945	11,099
総人数	688	733	711	355	518	564	680	579	609	635	431	628	7,131

※上・下肢は胸骨・肋骨・鎖骨等含む。

図2 X線一般撮影（CR）検査 部位別件数・割合

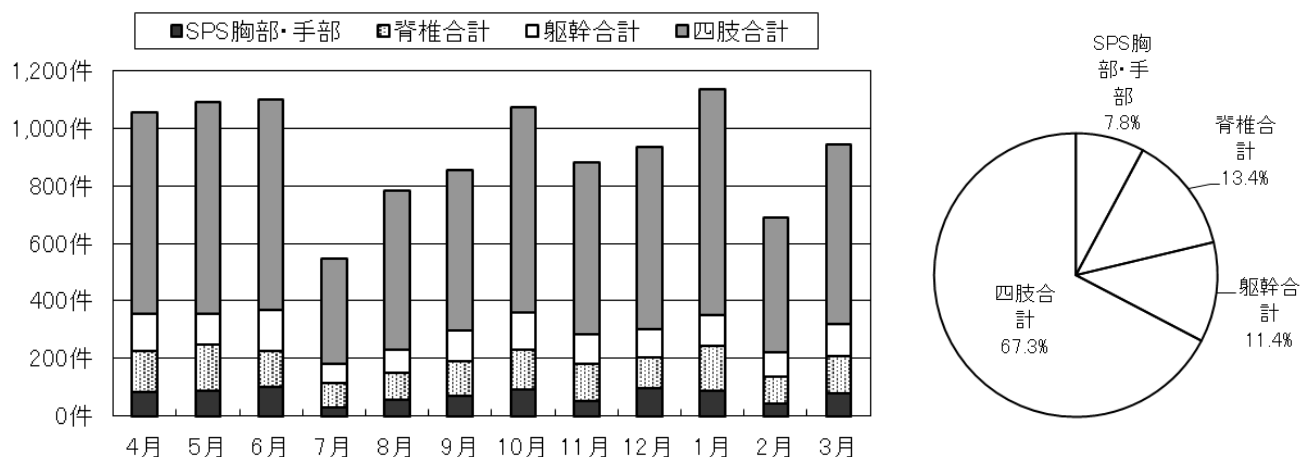


表3 パワーアップMRI・減量教室 部位別件数

（単位：件）

腹部	大腿	下腿	上腕	合計
45	—	—	—	45

表 4 骨量測定（DEXA）検査 月別・部位別件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
腰椎	19	13	14	12	11	17	25	18	21	17	11	14	192
大腿骨・前腕	29	22	23	17	18	27	36	27	32	24	21	22	298
全身骨・体組成	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1

③リハビリテーション科

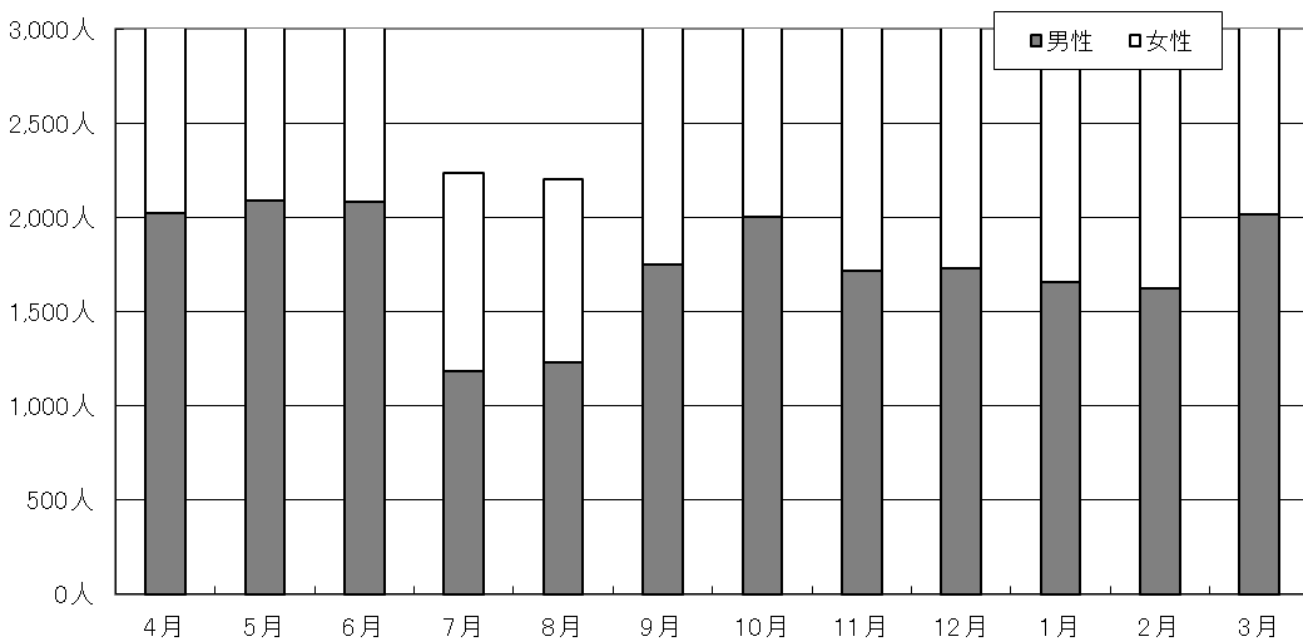
表 1 月別利用状況

(単位：人)

(単位：点)

	診療 日数	男性	女性	合計	対 応 疾患数	新患数	保険点数（点）			
							運動器リハ I	消炎鎮痛処置	固定	総合実施計画書
4月	21	2,022	1,578	3,600	6,287	388	2,668	929	—	847
5月	20	2,091	1,592	3,683	6,306	453	2,701	981	—	925
6月	21	2,082	1,743	3,825	6,544	366	2,779	1,052	—	925
7月	13	1,183	1,053	2,236	3,774	189	1,629	606	—	800
8月	15	1,232	969	2,201	3,776	324	1,618	581	—	690
9月	20	1,749	1,478	3,227	5,552	320	2,319	906	—	775
10月	22	2,003	1,608	3,611	6,262	392	2,539	1,070	—	834
11月	20	1,715	1,619	3,334	5,821	335	2,470	964	—	866
12月	19	1,727	1,643	3,370	5,881	309	2,494	875	—	910
1月	19	1,656	1,451	3,107	5,323	343	2,325	780	—	819
2月	18	1,624	1,456	3,080	5,208	263	2,343	737	—	833
3月	21	2,014	1,840	3,854	6,488	354	2,844	1,009	—	892
合計	229	21,098	18,030	39,128	67,222	4,036	28,729	10,490	—	10,116
月平均		1,758.17	1,502.50	3,260.67	5,601.83	336.33	2,394	874	—	843
日平均		92	79	171	294	18	125	46	—	0

図 1 性別構成



(3) メディカルエクササイズコース(MEC)

MEC は、SPS や内科・整形外科外来の疾患患者で、医師の運動処方に基づき、有酸素運動やほぐし、ストレッチング、筋力トレーニングなどを行う運動療法である。この教室では、疾病の改善と運動機能の向上を図ることを目的に実施している。

■対象者

SPS 参加者や外来受診者で、軽度の内科的疾患または予備軍であり、医師が運動の実践で改善が見込まれると判断した方。もしくは主に腰背部・膝関節周囲部に疾患があり、医師が軽度な運動で改善が見込まれると判断した方。

■実施内容

- ・アリーナコース（大アリーナ・トレーニングルーム・MEC ルーム・ライブラリー）
医師の指示に基づき、主に有酸素運動や筋力トレーニングを行う。
- ・プールコース（25mプール）
医師の指示に基づき、水中で運動を行う。

■実施時間

1 回 90 分

■実施日（○印：実施日）

コース	時間	月	火	水	木	金	土	日
アリーナコース (有酸素運動)	10 : 15～11 : 45	○	—	—	○	—	○	—
	13 : 00～14 : 30	○	—	○	○	○	—	—
プールコース	11 : 00～12 : 30	○	—	○	○	○	○	—
	13 : 30～15 : 00	○	—	○	○	○	—	—

コース	時間	月	火	水	木	金	土	日
アリーナコース (膝・腰)	9 : 00～10 : 30	○	—	○	○	○	○	—
	11 : 00～12 : 30	○	—	○	○	○	○	—
	13 : 00～14 : 30	○	—	○	○	○	○	—

■定員

アリーナコースの有酸素運動は 1 回 16 人、膝・腰は 1 回 12 人
プールコースは 1 回 7 人

■参加方法

参加基準並びに参加種類（アリーナコース・プールコース）は医師が決定し、参加者は定期的な外来診察を受ける。

■参加料金

1 回 1,500 円（医療費控除対象）

表 1 MEC アリーナコース月別・男女別参加者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	148	148	157	102	113	172	190	167	169	162	151	184	1,863
女性	435	453	434	278	302	446	516	488	482	455	419	482	5,190
合計	583	601	591	380	415	618	706	655	651	617	570	666	7,053

図 1 MEC アリーナコース性別構成

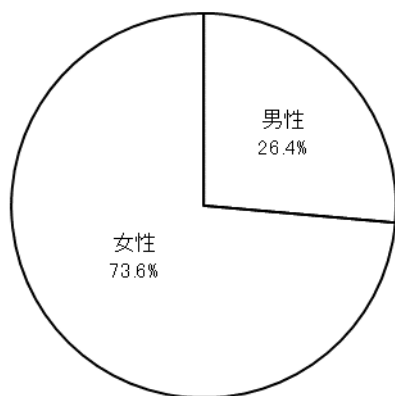
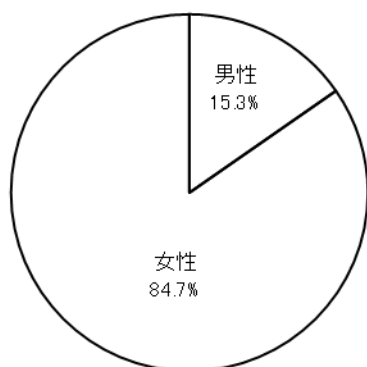


表 2 MEC プールコース月別・男女別参加者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	17	20	22	11	14	19	21	17	19	23	31	32	246
女性	134	123	127	83	88	128	125	119	90	119	101	122	1,359
合計	151	143	149	94	102	147	146	136	109	142	132	154	1,605

図 3 MEC プールコース性別構成



(4) スポーツ教室・健康教室・目的別教室

①スポーツ教室

スポーツ医科学センターでは、幼児・児童は運動能力の発達と競技力の向上を、成人は健康・体力の維持増進を目的として体操・水泳・トレーニングのスポーツ教室を開催している。

(ア) 体操教室

コース	実施曜日	内容
幼児	月・水・木・金・土・日	リズム運動・マット運動・跳び箱・鉄棒などで、敏捷性、平衡感覚、柔軟性を身につけるコース。
児童	月・水・木・金・土・日	個人の基礎体力に合わせて、無理なく運動能力を向上させるとともに、体操の基礎からバク転や宙返りなどの高度な技も練習するコース。
選手	月・水・木・金・土・日	体操選手として必要な体力、技術、精神面などを基本から学び、選手として活躍できるよう育成するコース。

表 1 体操教室月別・男女別参加者数

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	男性	247	231	236	122	189	258	253	262	181	245	262	268	2,754
	女性	181	185	212	97	175	225	227	218	151	221	207	213	2,312
	小計	428	416	448	219	364	483	480	480	332	466	469	481	5,066
児童	男性	480	474	506	237	349	529	556	523	371	464	512	536	5,537
	女性	508	517	527	262	372	562	584	539	399	509	510	548	5,837
	小計	988	991	1,033	499	721	1,091	1,140	1,062	770	973	1,022	1,084	11,374
選手	男性	481	467	437	292	342	444	514	469	464	347	422	493	5,172
	女性	472	460	431	281	333	397	440	385	374	280	333	379	4,565
	小計	953	927	868	573	675	841	954	854	838	627	755	872	9,737
合計		2,369	2,334	2,349	1,291	1,760	2,415	2,574	2,396	1,940	2,066	2,246	2,437	26,177

(イ) 水泳教室

コース	実施曜日	内容
幼児	月・水・木・金・土・日	水への恐怖心をなくし、水慣れ（潜る・浮く）からバタ足など水泳の基礎を練習し、楽しく基本練習を行うコース。
児童・基礎	月・木・土・日	水泳の基本となる水慣れ（潜る・浮く）からバタ足を練習し、クロールと背泳ぎの2泳法を無理なくマスターするコース。
児童・応用	水・金・土・日	クロール・背泳ぎを反復練習して泳力と泳法を向上するとともに平泳ぎとバタフライの4泳法をマスターするコース。
児童・育成	月・木	クロール・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4泳法を練習しながら、さらなる水泳技術と泳力の向上を目指すコース。
成人・基礎	月・木・土	水泳をはじめて練習される方からクロール・背泳ぎをマスターしたい方、泳力を向上させたい方のコース。
成人・応用	月・水・木・金・土	クロール・背泳ぎができる方を対象とし、4泳法をマスターして、さらに泳法・泳力の向上を目指すコース。
マスターズ	木・日	自由形で50m以上の泳力がある方を対象とし、泳法・泳力の向上と距離やタイムにもチャレンジするコース。
選手	月・水・木・金・土	水泳選手として必要な体力・技術・精神面などを基本から学び、選手として活躍できるよう育成するコース。
アクアビクス	水・金	水中で音楽に合わせて有酸素運動を行うコース。
ワンポイントアドバイス	予約制	スイミルを利用して、スイミングフォームを撮影し、水泳指導員がアドバイスを行う。

表2 水泳教室月別・男女別参加者数

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	男性	109	138	155	80	128	176	175	174	132	245	181	268	1,961
	女性	82	94	102	55	83	125	137	126	107	221	143	213	1,488
	小計	191	232	257	135	211	301	312	300	239	466	324	481	3,449
児童	男性	625	657	715	333	478	725	670	640	522	464	610	536	6,975
	女性	446	477	494	231	322	454	462	446	330	509	398	548	5,117
	小計	1,071	1,134	1,209	564	800	1,179	1,132	1,086	852	973	1,008	1,084	12,092
成人 マスターズ	男性	50	51	50	22	37	53	53	49	37	347	46	493	1,288
	女性	254	258	268	128	181	260	258	253	214	280	256	379	2,989
	小計	304	309	318	150	218	313	311	302	251	627	302	872	4,277
選手	男性	254	234	228	133	202	255	231	226	168	2,066	225	2,437	6,659
	女性	277	254	234	124	182	238	234	199	155	208	255	231	2,591
	小計	531	488	462	257	384	493	465	425	323	2,274	480	2,668	9,250
アクアビクス	男性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女性	20	23	24	12	5	11	11	12	5	10	7	13	153
	小計	20	23	24	12	5	11	11	12	5	10	7	13	153
ワンポイント アドバイス	男性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		2,117	2,186	2,270	1,118	1,618	2,297	2,231	2,125	1,670	4,350	2,121	5,118	29,221

(ウ)トレーニング教室

コース	実施曜日	内容
筋力向上・姿勢改善教室 旧名称：ウェルラウンド (16歳以上)	月・水・木・金・土 ※月・木・土は午後コース 水・金は午前コース、 午後コース	SPSの結果に基づいて、個々人に合わせた運動メニュー（有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチ等）を行い、健康・体力の維持・向上を図るコース。

表1 トレーニング教室月別・男女別参加者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	202	197	212	—	—	150	217	214	191	197	180	212	1,972
女性	289	265	268	—	—	263	315	297	309	268	251	287	2,812
小計	491	462	480	—	—	413	532	511	500	465	431	499	4,784

(エ)スポーツ教室イベント

事業名	開催日	対象者	人数
3歳はじめて体操教室 体操器具（マット・鉄棒・トランポリン等）を使用して器械体操の基礎を体験。	令和3年12月25日	3歳児の非会員	11
3日間バク転チャレンジ 指導員が補助してバク転を集中練習する教室です。後方に回る感覚やバク転で見える視界を体験。	令和3年12月25日	スポーツ教室会員および非会員	26

②健康教室

健康教室は、スポーツ（運動）実施のきっかけづくりとスポーツの振興を目的として、1 年を 4 期に分けて開催している。

※令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、定員を縮小して実施した。

コース	定員	内容
太極拳 (16 歳以上)	19 人	練功十八法を準備運動に取り入れ、太極拳の基礎を行う。
フラダンス (16 歳以上)	39 人	歌詞の意味を手足や表情で表し、基礎から一曲ずつマスターする。
健康ヨーガ・水曜・金曜 (16 歳以上)	各 19 人	姿勢・動作・呼吸法など、ヨーガの基礎を行う。 (すべて同じ内容で実施)
ピラティス (16 歳以上)	39 人	ゆったりとした動きで体幹を意識し、身体や動作の歪みやくせの改善を目指す。
シェイプアップボクシング (16 歳以上)	19 人	ボクシングエクササイズを行うことで、循環を改善し、心肺機能を高め、有酸素運動で脂肪を燃焼させる。
親子リトミック (教室初回時に 2～3 歳児の子どもと保護者)	9 組	親子でリズムに合わせて体を動かし、表現力・創造力を育み、社会性を身につける。楽しみながら体力づくりや仲間づくりをする。
骨盤調整 (16 歳以上)	19 人	骨盤を動かし、全身の調整を行う。からだの歪みを整え、引き締めの体操でコンディションを整える。
大人のためのコンディショニング水曜・金曜 (16 歳以上)	各 15 人	日常使っていない筋力を維持・増進しバランス感覚を養う。運動習慣の獲得を目指す。
機能改善ヨーガ (16 歳以上)	36 人	ポーズごとに機能を活性化するための簡単なエクササイズを行い、効果を深く感じながら身体を整える。
朝のリフレッシュ運動 (16 歳以上)	19 人	軽い筋力トレーニングやストレッチなどを行い、運動不足の解消を目指し、活動的な身体作りを行う。
ハワイアンキルト (16 歳以上)	9 人	初めての方でも気軽に作れるハワイアンキルトを 1 期に 2 作品作成する。

表1 健康教室月別・男女別参加者数

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
親子リトミック	男性	4	8	3				6	10	3	2	3	2	41
	女性	16	34	17				16	36	9	6	9	6	149
	小計	20	42	20	—	—	—	22	46	12	8	12	8	190
骨盤調整(月)	男性	5	10	5				3	6	2	6	10	3	50
	女性	20	32	17				21	48	7	25	45	23	238
	小計	25	42	22	—	—	—	24	54	9	31	55	26	288
健康ヨーガ(水)	男性	4	2	3				3	3	3	3	3	4	28
	女性	29	24	37				35	33	36	29	25	40	288
	小計	33	26	40	—	—	—	38	36	39	32	28	44	316
太極拳	男性	10	20	9				8	18	4	12	23	10	114
	女性	13	29	14				16	39	6	12	20	13	162
	小計	23	49	23	—	—	—	24	57	10	24	43	23	276
朝のリフレッシュ運動	男性													—
	女性							6	15	3	10	18	9	61
	小計	—	—	—	—	—	—	6	15	3	10	18	9	61
フラダンス	男性													—
	女性	47	92	94				67	91	68	43	76	82	660
	小計	47	92	94	—	—	—	67	91	68	43	76	82	660
ピラティス(木)	男性	3	6	7				7	6	3	4	5	6	47
	女性	23	39	38				34	45	19	23	38	39	298
	小計	26	45	45	—	—	—	41	51	22	27	43	45	345
機能改善ヨーガ	男性	2	4	3				3	4	2	3	4	3	28
	女性	21	40	35				36	54	39	29	43	31	328
	小計	23	44	38	—	—	—	39	58	41	32	47	34	356
健康ヨーガ(金)	男性	3	11	12				9	12	11	9	8	12	87
	女性	21	74	63				51	64	24	51	43	65	456
	小計	24	85	75	—	—	—	60	76	35	60	51	77	543
シェイプアップボクシング	男性	4	5	6				8	9	5	8	9	10	64
	女性	16	27	29				27	33	14	24	22	28	220
	小計	20	32	35	—	—	—	35	42	19	32	31	38	284
ハワイアンキルト	男性													—
	女性	12	10	7				13	10	10	8	8	9	87
	小計	12	10	7	—	—	—	13	10	10	8	8	9	87
合計		253	467	399	—	—	—	369	536	268	307	412	395	3,406

※7月～9月に開催される『夏の健康・文化教室』は、オリンピック・パラリンピック開催に伴い、未実施。

③目的別教室

目的別教室は、日常的な運動の必要性と食事の改善等を指導しながら安全に減量を行う「減量・脂肪燃焼教室」と、肩や肘に痛みを訴える少年野球選手を減少させることを目的とした「ケガ予防のための『少年野球』クリニック等を開催している。

(ア) 減量・脂肪燃焼教室

概要	この教室は、個人にあった運動や食生活の改善により、体脂肪や内臓脂肪を減らし、生活習慣病の予防改善を図ることを目的としている。教室は約3カ月半で設定しており、その期間中は週3回の運動指導を実施する。 教室参加前と終了時に腹部MRIの撮影で脂肪量を測定するのが特徴である。 医師・科学員・管理栄養士・運動指導員が、SPS（メディカルとフィットネスチェック）の検査（事前と最終回に実施）や測定結果に応じて、日常生活の見直しを行いながら、運動や栄養の指導を行っている。
対象	15歳以上（中学生は除く）
定員	1期10名（年3期実施）
運動指導の内容	・トレーニングルームでの運動指導 ・毎週水曜日は、エアロビクスエクササイズの一斉指導 ・自宅メニューの作成（1週間単位） ・自宅での運動の有無や内容・歩数などについては、個々人の記録を提出していただいた後、ヒヤリングをしながら指導
栄養指導の内容	・集団講義は月1回に実施 約30分 ・個別相談は予約制で1回1人30分として参加者全員1回以上実施 ・教室期間中の自宅メニュー（食事・間食等の記録）とSPSの結果をもとに個々の食生活を見直して目標を決める

表1 減量・脂肪燃焼教室月別・男女別参加者延人数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	—	—	—	—	4	13	13	12	23	32	31	20	148
女性	95	116	106	60	27	75	80	82	50	73	70	46	880
合計	95	116	106	60	31	88	93	94	73	105	101	66	1028

表2 減量・脂肪燃焼教室フォローコース月別・男女別参加者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	1	4
女性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22	30	26	78
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25	30	27	82

(イ) ケガ予防のための「少年野球」クリニック

概要	肩や肘に痛みを訴える少年野球選手を減少させることを目的に、専門スタッフから「フォームチェック」「トレーニング方法」を直接学ぶ。小学生対象は年 10 回実施、中学生対象は年 5 回実施。
対象	小・中学生の野球選手及び保護者・指導者（チーム対象も実施）
定員	各 30 名（小・中学生 15 名、大人 15 名）
実施内容	野球選手に起こる肩や肘のケガについてのセミナー実施 個々に超音波検査・全身理学所見の評価・フォームチェックを実施 個人の身体の状態に合わせたトレーニング方法を指導

表 1 ケガ予防のための「少年野球」クリニック参加者数

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
少年野球クリニック (小学生)	子ども	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	13
	大人(監督、コーチ、保護者)	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	7
	計(人数)	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	20
少年野球クリニック (中学生)	子ども	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
	大人(監督、コーチ、保護者)	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
	計(人数)	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4
少年野球クリニック (チーム編)	子ども	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	大人(監督、コーチ、保護者)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	計(人数)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0

(ウ) トレーニングルームにおける目的別教室

名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ボディメイク・筋力アップ教室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ストレッチング&体幹トレーニング	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

④ その他教室・イベント

市民が気軽に参加できる、「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2022」は、政府から発出された新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の適用により、実施できなかった。

(5) 健康に関する講座・講演等事業

科学員、指導員、理学療法士、管理栄養士、放射線技師らが講師となり、それぞれの専門的な観点から健康やスポーツなどに関する講演会を行った。

表 1 講演実績

実施日	講師	内容	依頼先	実施場所	人数
2021/4/22	久保田 麻紀 吉久 武志 高木 久見子 浅田 修 中田 周兵	スポーツサイエンス講義	大阪市立桜宮高等学校	オンライン	40
2021/6/19	吉久 武志	横浜市スポーツ協会スポーツリーダー養成講座『トレーニング論』講義	横浜市スポーツ協会	オンライン	70
2021/7/3	吉久 武志	北里大学医療衛生学部見学実習『スポーツ科学部門の取り組み』講義	北里大学医療衛生学部	スポーツ医科学センター大研修室	50
2021/9/22	高木 久見子	Zoomによるオンライン『栄養指導講習会』講義	スペース杉田	オンライン	10
2021/10/18～ 2021/12/31	塩田 真史	学校保健研修eラーニング『成長期に起こるけがとスポーツ外傷への対応』講義	横浜市教育委員会	オンライン	200
2021/10/24	吉久 武志	DeNAランナーズアカデミーオンライン講座『アスリートチェックデータ報告』講義	DeNAランナーズアカデミー	THE BAYS	40
2021/12/12	高木 久見子	『パフォーマンスをアップする食事のとり方』講義	南区スポーツ協会	南区役所	50
2022/1/20	吉久 武志	北里大学医療衛生学部見学実習『スポーツ科学部門の取り組み』講義	北里大学医療衛生学部	スポーツ医科学センター大研修室	50
2022/1/22	吉久 武志	介護予防運動指導員 養成講座 『介護予防統計学』講義	横浜市スポーツ協会	横浜市スポーツ協会事務局	10
2022/1/27	塩田 真史	横浜市学校保健会『成長期のスポーツ外傷・障害の予防と応急手当』講義	横浜市学校保健会瀬谷支部	横浜市立瀬谷小学校	20
2022/2/5	藤堂 愛	緑区スポーツ人の集い『東京パラリンピック事業従事報告』	緑区スポーツ協会	緑公会堂	中止
2022/2/19	藤堂 愛	港北区スポーツシンポジウム『東京パラリンピック事業従事報告』	港北区スポーツ協会	横浜ラポール	中止

(6) 市からの委託事業

①腰痛健康診断事業(委託者:横浜市資源循環局)

毎年度、ごみ収集作業等の従事職員を対象に、腰痛症等の早期発見、早期治療や腰痛予防を目的として、腰痛に関するスクリーニング健診(1次健診)、精密健診(2次健診)、運動指導等の総合的な検診事業を受託している。令和3年度の本事業は、政府から発出された新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の適用により、実施されなかった。

5 スポーツ振興事業

(1) スポーツ指導者養成

①横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座 企画

横浜市スポーツ協会が実施する指導者養成講座で専門職員による講座を行った。

講演日	講師	内容	依頼先	講演場所	参加者数
6/19	吉久 武志	トレーニング論 I	横浜市スポーツ協会 スポーツ事業課	オンライン	64
6/21	高木 久見子	スポーツと栄養		オンライン	62
6/22	来住野 麻美	ジュニア期のスポーツ		オンライン	62
6/25	高木 明彦	スポーツ指導者に必要な 医学的知識 I		オンライン	62
2/12	高木 久見子	スポーツ栄養学		オンライン	12

(2) スポーツ医科学に関する研究

①著書等

種別	著書名	出版社	出版年	論文名	執筆者	職種
書籍	アナトミカル キネシオロジー	メディカ ルイン ターナ ショナル	2021	Section2 骨とそのランドマー ク 第5章 体軸骨格の骨	永野 康治	理学療 法士
書籍	講座スポーツ整 形外科3 整形 外科医のための スポーツ医学 概論	中山書店	2021	敏捷性（アジリティ）	松田 匠生 鈴川 仁人	理学療 法士
書籍	講座スポーツ整 形外科3 下肢 のスポーツ 外傷・傷害	中山書店	2021	踵骨骨端炎	松田 匠生 鈴川 仁人	理学療 法士

種別	著書名	出版社	出版年	論文名	執筆者	職種
原著	日本アスレティックトレーニング学会誌	日本アスレティックトレーニング学会	2021	肘内側障害に影響を及ぼす股関節機能と投球動作中の下肢キネマティクス-学童期野球投手における前向きコホート調査-	来住 野麻美	理学療法士
原著	日本整形外科スポーツ医学会誌	日本整形外科スポーツ医学会	2021	超音波剪断波エラストグラフィ (ShearWave Elastography) を用いた膝前十字靱帯再建術後における再生半腱様筋腱弾性率の回復過程の検討	菊川 大輔	理学療法士
原著	Open Access Journal of Sports Medicine	Dove Medical Press	2021	Prevalence and Burden of Physical Problems in Female College Basketball Athletes: A 135-Day Prospective Cohort Study	Yasuharu NAGANO	理学療法士
原著	Physician and sportsmedicine	Taylor and Francis Group	2021	Association of sports sampling and training frequency with injury among school-age athletes in Japan	Yasuharu NAGANO	理学療法士
原著	PLoS One	Public Library of Science	2021	An update of the Japanese Oslo Sports Trauma Research Center questionnaires on overuse injuries and health problems	Yasuharu NAGANO	理学療法士
原著	International Journal of Sports Physiology and Performance	Human Kinetics	2021	High-Acceleration Movement, Muscle Damage, and Perceived Exertion in Basketball Games	Yasuharu NAGANO	理学療法士
原著	Journal of Sports Sciences	Routledge	2021	Neuromuscular responses of the hamstring and lumbopelvic muscles during unanticipated trunk perturbations	Yasuharu NAGANO	理学療法士
原著	臨床バイオメカニクス	日本臨床バイオメカニクス学会	2021	女子サッカー選手における高衝撃特性について：体幹加速度を用いた試合・練習間およびリバウンドジャンプとの比較	永野 康治	理学療法士

種別	著書名	出版社	出版年	論文名	執筆者	職種
総説・解説	理学療法	理学療法	2021	成長期の膝関節周辺のスポーツ障害と理学療法	塩田 真史	理学療法士
総説・解説	臨床スポーツ医学	臨床スポーツ医学	2021	慢性障害を含めたスポーツ外傷・障害調査, Oslo Sports Trauma Research Center 質問紙を用いた調査	永野 康治	理学療法士
総説・解説	臨床スポーツ医学	臨床スポーツ医学	2021	コンディショニング	松田 匠生 鈴川 仁人	理学療法士
雑誌	健康管理	株式会社保健文化社	2021	コロナの自粛期間による活動量の変化と身体への影響	小柳 玲乃	スポーツ科学員
雑誌	赤ちゃん和妈妈	赤ちゃん和妈妈社	2021	パパの健康相談室『運動不足』	今川 泰憲	スポーツ科学員
Web サイト記事	ミラシル by 第一生命	第一生命保険株式会社	2022	ランニングすると痩せるのは本当？どのくらい走れば痩せるのかを専門家が解説。	今川 泰憲 (取材対応)	スポーツ科学員
書籍	トレーニングのプロが本気で考えた効果絶大 自重筋トレ	コスミック出版	2021	・今なぜ、自重筋トレか ・減量に筋力トレーニングが必要な理由 ・自宅でできる自重筋トレ ・トレーニングプログラム	今川 泰憲 (写真モデル： 古畑亨・ 酒井彩花)	スポーツ科学員 (運動指導員)
雑誌	健康管理	株式会社法研	2021	コロナ禍における食生活見直しの重要性	高木久見子	管理栄養士

②講演等

主催団体・研修等	開催日	タイトル	講師	職種
横浜リハビリテーション専門学校	2021/10/25	東京 2020 大会日本代表選手団本部における活動について	鈴川 仁人	理学療法士
北里大学	2021/11/25	東京 2020 大会日本代表選手団本部における活動について	鈴川 仁人	理学療法士
第 8 回日本スポーツ理学療法学会学術大会シンポジウム	2021/12/11	東京 2020 大会における PT サービスとレガシー	鈴川 仁人 玉置 龍也	理学療法士
昭和大学	2021/12/18	東京 2020 大会における理学療法サービスの提供について	鈴川 仁人 玉置 龍也	理学療法士

主催団体・研修等	開催日	タイトル	講師	職種
湘南医療大学	2021/1/7	東京 2020 大会における理学療法サービスの提供について	鈴川 仁人 玉置 龍也	理学療法士
神奈川県理学療法士会	2022/2/11	下肢のスポーツ理学療法	玉置 龍也	理学療法士
神奈川県理学療法士会	2021/3/14	東京 2020 パラリンピック競技大会における理学療法士の活動：ゴールボール日本代表チームでの活動	藤堂 愛	理学療法士
神奈川県理学療法士会	2022/3/20	東京オリンピック競技大会 選手村ポリクリニックにおける PT サービス	玉置 龍也	理学療法士
横浜市スポーツ協会 スポーツリーダー養成講座	2021/6/19	『トレーニング論』	吉久 武志	スポーツ科学員
北里大学医療衛生学部 見学実習	2021/7/3	スポーツ医科学センターにおける スポーツ科学部門の取り組み	吉久 武志	スポーツ科学員
DeNA ランナーズアカデミー オンライン講座	2021/10/24	アスリートチェックの結果について	吉久 武志	スポーツ科学員
北里大学医療衛生学部 見学実習	2022/1/20	スポーツ医科学センター 事業概要／スポーツ科学部門の 取り組み	吉久 武志	スポーツ科学員
介護予防運動指導員 養成講座（第 3 回）	2022/1/22	介護予防統計学	吉久 武志	スポーツ科学員
横浜市スポーツ協会・ス ポーツリーダー養成講習会	2021/6/26	スポーツと栄養	高木久見子	管理栄養士
スペース杉田オンライン栄 養セミナー	2021/9/22	健康 BODY めざして食生活を見直そう	高木久見子	管理栄養士
南区スポーツ協会・南区役 所「みなっちスポーツ work shop」	2021/12/12	パフォーマンスをアップする食事の とり方	高木久見子	管理栄養士
横浜商業高校スポーツマネ ジメント科・特別授業①	2022/1/21	体づくりの基本は栄養補給から①	高木久見子	管理栄養士
横浜商業高校スポーツマネ ジメント科・特別授業②	2022/1/28	体づくりの基本は栄養補給から①	高木久見子	管理栄養士
横浜市スポーツ協会・ス ポーツレクリエーション 人材養成講座	2022/2/12	技術や戦術だけではないスポーツ 栄養学	高木久見子	管理栄養士

③学会

学会名	開催日	タイトル	発表者	職種
第 32 回日本臨床スポーツ医学会	2021/11/13-14	単一スポーツ早期実施の種目別現状および外傷・障害との関係について	永野 康治	理学療法士
第 8 回日本スポーツ理学療法学会学術大会	2021/12/11-12	COVID-19 流行禍における学生スポーツ選手のメンタルヘルス調査	松田 匠生	理学療法士
第 8 回日本スポーツ理学療法学会学術大会	2021/12/11-12	ジュニア器械体操選手に対する Oslo Sports Trauma Research Center 質問紙使用の試み～器械体操選手特有の外傷・障害症状の収集にむけて～	小林優理亜	理学療法士
第 8 回日本スポーツ理学療法学会学術大会	2021/12/11-12	膝前十字靭帯再建術後の競技復帰時期における再建側再受傷の発生に関連する因子の検討	中田 周兵	理学療法士
第 8 回日本スポーツ理学療法学会学術大会	2021/12/11-12	フィギュアスケート選手の傷害経験に関する調査報告―疲労骨折に着目して―	来住野麻美	理学療法士
日本体育・スポーツ・健康学会	2021/9/8	コロナ禍による高齢者の身体活動量の変化と下肢筋力への影響	小柳 玲乃	スポーツ科学員

④社会的活動

主催団体	受任期間	内容	受任者	職種
(公財)神奈川県スポーツ協会	2004～	スポーツ医科学委員会トレーナー部会員	鈴川 仁人	理学療法士
(公社)神奈川県理学療法士会	2021～ 2020～ 2020～ 2017～	常任理事 健康増進部部長 スポーツ支援部副部長 スポーツ支援部部員	鈴川 仁人 中田 周兵 玉置 龍也 青山真希子	理学療法士
(公財)日本スポーツ協会	2010～	公認アスレティックトレーナー専門科目 検定試験総合実技試験 WG 委員	鈴川 仁人	理学療法士
横浜ビー・コルセアーズ (bリーグ)	2021～ 2014～	アスリートパフォーマンスディレクター メディカルトレーナー	玉置 龍也 中田 周兵	理学療法士
(公財)日本スポーツ協会	2012～ 2015～ 2015～ 2016～	公認アスレティックトレーナー養成講習会 専門科目 3 期集合講習会 講師	鈴川 仁人 玉置 龍也 永野 康治 塩田 真史	理学療法士

主催団体	受任 期間	内容	受任者	職種
(一社) 日本スポーツ理学療法学会	2021～	副理事長 理事 評議員・広報委員会委員長 評議員・財務委員会委員 財務委員会委員	鈴川 仁人 永野 康治 玉置 龍也 高橋佐江子 塩田 真史	理学療法士
(公財) 日本スポーツ協会	2011～ 2015～ 2016～ 2018～	公認アスレティックトレーナー専門科目 検定試験総合実技試験 検定員	永野 康治 玉置 龍也 塩田 真史 國次 聡史	理学療法士
日本ソフトテニス連盟	2017～	医科学委員	永野 康治	理学療法士
(公財) 日本陸上競技連盟	2018～	トレーナー部トレーナー	柴田 真子	理学療法士
横浜 F・マリノス (Jリーグ)	2020～	トップチームトレーナー	菊川 大輔	理学療法士
(一社) 日本ゴールボール協会	2019～ 2021～	強化部トレーナー 強化部主任トレーナー	藤堂 愛	理学療法士
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	2021～	ラグビー15人制男子日本代表トレーナー (Physiotherapist)	國次 聡史	理学療法士
(公財) 日本オリンピック委員会	2021	東京オリンピック競技大会日本代表選手団本部メディカルスタッフ (トレーナー)	鈴川 仁人	理学療法士
(公財) 日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会	2021	東京パラリンピック競技大会日本代表選手団ゴールボール競技 (トレーナー)	藤堂 愛	理学療法士
(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	2021	東京オリンピック・パラリンピック競技大会選手村総合診療所/分村医務室スタッフ	鈴川 仁人 塩田 真史 来住野麻美	理学療法士
(独) 日本スポーツ振興センター	2021	東京 2020 大会ハイパフォーマンスサポートセンタースタッフ	松田 匠生 柴田 真子 田中 大夢 今 花夏 平山 公佑 筒井 俊春 上村 杏奈 櫻井 裕太 大平 葉奈 彼島 奈々 本間 友菜	理学療法士 理学療法助手

主催団体	受任 期間	内容	受任者	職種
(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	2021	東京オリンピック競技大会競技会場メディカルスタッフ	中田 周兵 青山真希子 小林優理亜	理学療法士
(公財)日本オリンピック委員会	2021～	日本オリンピック委員会強化スタッフ (医・科学スタッフ/ダンススポーツ)	上村 杏菜	理学療法士
(公財)日本オリンピック委員会	2020～	日本オリンピック委員会強化スタッフ (医・科学スタッフ/体操競技)	小林優里亜	理学療法士
公益財団法人 全日本スキー連盟	2018～	競技本部専門委員 (情報・医・科学部)	吉久 武志	スポーツ科学員
公益財団法人日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会医 科学情報スタッフ (栄養)		パラリンピック選手の栄養管理・栄養 サポート遠征 (国内・海外) 帯同	高木久見子	管理栄養士
公益財団法人日本スケート連盟 フィギュアスケート 医科学ワーキンググループ (栄養士)		フィギュアスケート選手の栄養管理・ 栄養サポート国内合宿帯同	高木久見子	管理栄養士

(3) 情報の収集及び提供

① SPORTS よこはま

『SPORT よこはま』は、2020年4月に発刊されたVOL. 78号をもって廃刊となった。

②横浜市スポーツ医科学センターWeb ページ

横浜市スポーツ医科学センターの利用案内に加えて、それぞれの分野からのコラムや蓄積してきたデータなどの情報提供を行った。

表 1 掲載実績 企画

掲載月	執筆者	内容		職種
2021/9～	小柳 玲乃	健康・体力 アップ情報	コロナ禍による高齢者の身体活動量の変化 と下肢筋力への影響	スポーツ 科学員
2021/6～	来住野麻美	リハビリ室 コラム	フィギュアスケート選手のコンディショニ ングサポート	理学療法士
2021/6～	菊川大輔		横浜 F・マリノス トレーナー活動報告	理学療法士
2021/7～	藤堂 愛		2021 ジャパンパラゴールボール競技大会 日本代表チーム帯同報告	理学療法士
2021/9～	中田 周兵		B. LEAGUE 横浜ビー・コルセアーズのメディ カルサポート	理学療法士
2022/12～	藤堂 愛		東京 2020 パラリンピック競技大会 ゴール ボール日本代表チーム帯同報告	理学療法士
2021/12～	青山 真希子		第 8 回日本スポーツ理学療法学会学術大会 参加記	理学療法士
2022/1～	藤堂 愛		2021 ジャパンパラゴールボール競技大会 日本代表チーム帯同報告	理学療法士
2021/10～	高木久見子	ヘルシーレ シピ	スポーツ活動時における栄養補給プラン そ の 1.	管理栄養士

③ライブラリー

スポーツ医科学専門ライブラリーにはスポーツ医科学に関する多くの書籍を置き、市民に開放している。

表 1 主な蔵書

和書	最新心電学・医学大辞典・看護学大辞典・解剖生理学・ナース内科学 ほか
洋書	Sports - Medicine・ORTHOPA-EDIC - AND - SPORTS・PHYSICAL - THERAPY:ets ほか
雑誌	AMERICAN - JOURNAL - OP - MEDI-CINE・臨床栄養・心臓・ナース専科 ほか
CD	A. D. A. M インタラクティブ解剖学・医療用薬品集 CD - ROM 検索システム ほか

(4) 施設の提供

①施設貸出

大アリーナ・小アリーナ・研修室を目的に合わせて貸出を行っている。

(ア) アリーナ

施設名	面積	利用用途
大アリーナ	930 m ²	器械体操（体操設備常設）
小アリーナ	460 m ²	エアロビクス・ダンス・軽運動 など

表 1 大アリーナ・小アリーナ月別利用者数

（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
790	816	639	280	468	543	961	783	821	924	1,221	1,168	9,414

(イ) 研修室

施設名	面積	収容人数	利用用途
大研修室	250 m ²	135 人	研修室・発表会・会議 など
中研修室	140 m ²	81 人	
会議室	60 m ²	16 人	会議・打ち合わせ など

表 2 大研修室・中研修室・会議室月別利用者数

（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,091	0	0	0	0	0	294	480	621	421	732	574	4,213

(ウ) イベントへの貸出

令和3年度の下記事業は、政府から発出された新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用により、実施されなかった。

イベント名	開催日	貸出施設	利用者数
ビギナーズトライアスロン in 日産スタジアム	—	—	—
横浜地域ABC級記録会	—	—	—

②個人利用

SPS 受診者や一般利用者を対象に、トレーニングルームと 25m 室内温水プールを健康の維持・増進を目的として個人利用に提供している。

(ア) トレーニングルーム

利用対象者	・原則として 15 歳以上の方（中学生は利用不可） ・トレーニングルーム利用者講習会を受けた方 ・リハビリテーションや MEC を利用している人または利用していた方で、医師がトレーニングの実施を許可した方
利用料金	1 回 1,000 円 (コロナ禍では、混雑緩和のため 2 時間 45 分 500 円(税込)の料金体制で実施)
利用者講習会	初めてトレーニングルームを利用する方を対象に、トレーニングルームの利用方法や各種のトレーニング方法・マシンの取り扱い方法を講習会形式で実施している。

表 1 トレーニングルーム月別利用者数

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
—	—	—	—	—	—	—	47	149	183	205	266	850

※コロナ禍の中、トレーニング室の個人利用の中止を令和3年4月から10月まで行った。

※個人利用のみで教室等での利用人数は含まない

表 2 トレーニングルーム利用講習会月別参加者数

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
—	—	—	—	—	—	—	6	4	6	15	14	45

(イ) 25m室内温水プール

利用対象者	・原則として 13 歳以上の方 ※13 歳未満の方は、1 人につき成人 1 人の同伴が必要。ただし、オムツの取れていない方は利用不可 ・25mを泳げる方 ・体調に不安の無い方
利用料金	1 回 600 円 (コロナ禍では、混雑緩和のため 1 時間 30 分 300 円(税込)の料金体制で実施)

表 3 25m プール月別利用者数

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
—	—	—	—	—	—	—	23	48	78	90	106	345

※個人利用のみで教室等の利用人数は含まない

(5) スポーツ大会、イベントでの PR・連携事業**スポ医科出張相談会****■実施内容**

市民参加のイベント・大会等にスタッフが直接出向き、施設・各種事業の紹介を行ったり、理学療法士（PT）によるケガ等の個別無料相談を実施したりする事業である。今年度は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用により、下記事業が実施されなかったため、参加できなかった。

■実施結果

実施日	大会名等	相談者
—	ビギナーズトライアスロン（日産スタジアム）	—
—	ビーチスポーツフェスタ（金沢海の公園）	—
—	シーサイドトライアスロン（金沢海の公園）	—
—	港北駅伝（新横浜公園）	—
—	日産スタジアム駅伝（新横浜公園）	—

6 競技選手の競技力向上事業

(1) 専門的体力測定・スキルチェック等

競技選手（競技力の向上を目指している方：一般スポーツ愛好家からトップレベルの選手までを含む）に対するサービスとして、より専門的な体力測定やスキルチェック（フォームの撮影・分析等）を実施している。トレーニング内容の検討やその効果の検証、競技特有の動作の分析など、要望に応じて実施内容・方法を検討している。

■主な測定内容

形態・体組成	肢長・周径囲、皮脂厚、体脂肪率 など
全身持久力	最大酸素摂取量、乳酸閾値（LT） など ランニング測定として一般ランナー向けに乳酸閾値を測定
筋力・瞬発力	等速性筋力、最大無酸素パワー、跳躍力 など
スキルチェック	アライメントチェック・フォーム撮影・動作分析 など

表 1 体力測定月別利用人数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
形態・体組成	27	25	7	4	19	—	—	8	79	84	41	65	359
全身持久力	9	41	22	12	42	44	21	23	35	14	41	44	348
うちランニング測定	1	3	10	2	6	5	3	4	3	6	6	3	52
筋力・瞬発力	34	3	8	16	24	—	—	14	82	97	31	49	358
スキルチェック	—	2	6	2	4	4	3	2	3	3	4	2	35
合 計	70	71	43	34	89	48	24	47	199	198	117	160	1,100

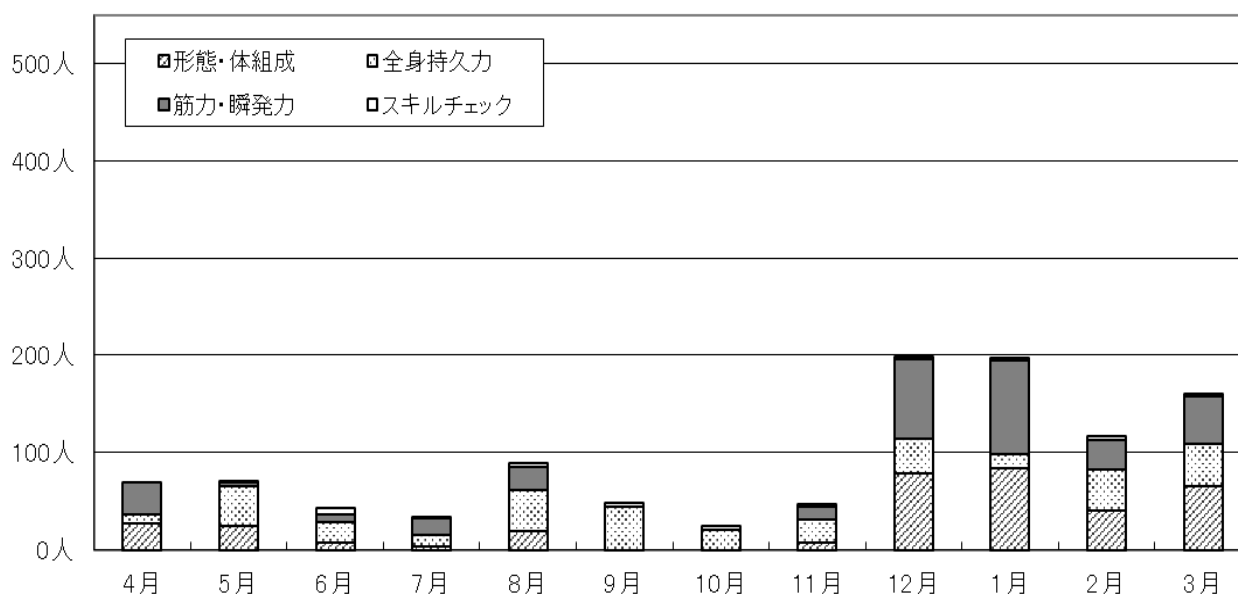


表 2 競技種目別・測定内容別人数

(単位：人)

種 目	性 別	測 定 内 容				計
		形態・体組成	全身持久力	筋力・瞬発力	スキルチェック	
サッカー	男性	158	1	183	—	342
	女性	—	—	—	—	—
陸上	男性	15	68	18	29	130
	女性	3	34	7	5	49
ボート	男性	21	28	—	—	49
	女性	35	36	—	—	71
ゴールボール	男性	24	8	24	—	56
	女性	24	8	24	—	56
二輪・四輪競技	男性	43	40	49	—	132
	女性	4	4	4	—	12
ラグビー	男性	16	1	16	—	33
	女性	12	—	12	—	24
スキー	男性	—	30	—	—	30
	女性	2	16	5	—	23
自転車	男性	—	40	—	—	40
	女性	—	—	—	—	—
その他	男性	—	11	6	—	17
	女性	2	23	10	1	36
合計	男性	277	227	296	29	829
	女性	82	121	62	6	271
	計	359	348	358	35	1,100

表 3 競技種目別・年齢別人数

(単位:人)

種 目	性 別	年 齢 区 分													計
		～ 19	～ 24	～ 29	～ 34	～ 39	～ 44	～ 49	～ 54	～ 59	～ 64	～ 69	～ 74	75 ～	
サッカー	男性	340	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	342
	女性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
陸上	男性	57	1	5	5	9	10	7	18	12	2	2	2	—	130
	女性	25	10	—	—	—	4	8	1	1	—	—	—	—	49
ボート	男性	28	9	9	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49
	女性	64	3	3	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	71
ゴールボール	男性	—	14	28	7	7	—	—	—	—	—	—	—	—	56
	女性	7	21	14	7	—	—	7	—	—	—	—	—	—	56
二輪・ 四輪競技	男性	54	63	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	132
	女性	—	—	6	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
ラグビー	男性	32	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	33
	女性	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24
スキー	男性	10	12	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30
	女性	3	10	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23
自転車	男性	—	8	20	2	8	—	2	—	—	—	—	—	—	40
	女性	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	男性	4	11	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	17
	女性	18	17	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36
合 計	男性	525	118	88	17	25	11	9	18	12	2	2	2	—	829
	女性	141	61	33	14	—	5	15	1	1	—	—	—	—	271
	計	666	179	121	31	25	16	24	19	13	2	2	2	—	1,100

(2)「横浜ビー・コルセアーズ」サポート

①概要

横浜市を拠点として活動するプロスポーツ選手の競技力向上支援の一環として、平成 23 年 10 月から立ち上がったプロバスケットボールチーム「横浜ビー・コルセアーズ」のメディカルサポートを実施した。

②事業目的

- ・専門的な医療機関・スタッフによる全面的メディカルサポート
- ・理学療法士の帯同による外傷・障害への迅速かつ適切な対応
- ・ネットワーク作成や外傷管理ファイルの提供による情報共有システムの構築
- ・サポート活動を通じた、メディア等の露出によるセンターPR
- ・持続可能なメディカル・コンディショニング体制の構築

③従事者

チームドクター：スポーツ医科学センター整形外科医（清水 邦明、小林 創）ほか
アスリートパフォーマンスディレクター：スポーツ医科学センター理学療法士（玉置 龍也）
メディカルトレーナー：スポーツ医科学センター理学療法士（玉置 龍也、中田 周兵）

④実施内容

(ア) 実施期間

2021 年 7 月 1 日～2022 年 5 月 8 日

(イ) チーム成績

レギュラーシーズン 22 勝 35 敗（東地区 8 位/11 チーム、総合順位 15 位/22 チーム）

(ウ) 医科学サポート実績

- ・メディカルチェック、診療、リハビリ

(エ) メディカルスタッフ帯同実績

- ・チームドクター：ホームゲーム 28 試合（新型コロナウイルス感染症の影響により 2 試合消滅）
- ・メディカルトレーナー：ホームゲーム 27 試合（同上、1 試合帯同不可、別に練習帯同あり）

(オ) 情報共有システムサポート

情報共有システム：組織間連絡、施設利用報告、チーム日報などについて SNS を活用

(カ) 情報発信

YSMC ホームページに活動紹介を掲載

「B. LEAGUE 横浜ビー・コルセアーズのメディカルサポート」

⇒ <http://www.yspc-ysmc.jp/column/rehabilitation/>

(キ) メディカル・コンディショニングチームのディレクション業務

メディカル・コンディショニング業務の統括とチームマネジメントを実施

(3)「横浜市立横浜商業高等学校スポーツマネジメント科」サポート

①概要

平成 23 年 3 月に横浜市が策定した「横浜市立高等学校 教育振興プログラム」を受け、平成 26 年 4 月に設置された「横浜市立横浜商業高等学校スポーツマネジメント科」のメディカルサポートを実施した。

②事業目的

横浜市立横浜商業高等学校スポーツマネジメント科の教育内容及び競技力向上に向けた専門的知識やノウハウの提供による医科学サポートの実施

③従事者

個別相談：スポーツ医科学センター理学療法士（青山 真希子、田中 大夢）

特別講義：スポーツ医科学センター内科医（長嶋 淳三）

スポーツ医科学センター理学療法士（青山 真希子、田中 大夢）

スポーツ医科学センター管理栄養士（高木 久見子）

体力測定データ分析：スポーツ医科学センタースポーツ科学員（吉久 武志）

④実施内容

(ア) 競技力向上の支援

個別相談 のべ 432 人

(イ) データ分析

授業の一環として受診する SPS のメディカルチェック及びフィジカルチェックデータの分析を行い、授業におけるプログラム作成等に活用

SPS 受診 1 年生 39 人、2 年生 36 人、3 年生 39 人

(ウ) 講師派遣

特別講義 6 回実施

(4)「東京 2020 大会」サポート

①東京 2020 大会におけるリハビリテーション科スタッフ(理学療法士・理学療法助手)の活動

東京 2020 大会（2021 年 7 月 23 日～8 月 8 日オリンピック競技大会、2021 年 8 月 24 日～9 月 5 日パラリンピック競技大会）の開催にあたり、横浜市スポーツ医科学センターリハビリテーション科から計 18 名のスタッフが、各派遣元からの委嘱で下記の役割に従事した。

(ア) オリンピック競技大会 日本代表選手団本部メディカルにおける活動

氏名	大会での役割	活動内容
鈴川 仁人	日本代表選手団 本部メディカル（トレーナー）	日本代表選手に対し、本部トレーナー3 名でホッケー、バスケットボール 3×3、競泳など 12 競技、135 件の対応を行った。また、競技会場にも帯同し、選手をサポートした。



本部トレーナールーム



日本代表選手への対応



閉会式

(イ) パラリンピック競技大会 日本代表選手団ゴールボール競技トレーナーにおける活動

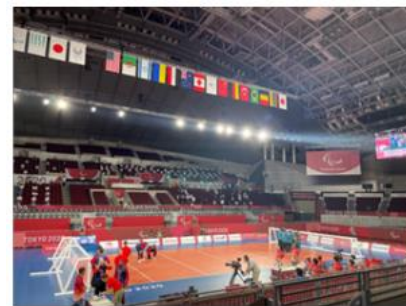
氏名	大会での役割	活動内容
藤堂 愛	日本代表選手団 ゴールボール競技トレーナー	トレーナーとして選手のコンディショニングに務めるとともに、ベンチスタッフとして試合中のベンチワークも担った。



試合前のウォーミングアップ



試合中のベンチワーク



競技エリア（FOP）

(ウ) オリンピック・パラリンピック競技大会 選手村総合診療所における活動

氏名	大会での役割	活動内容
塩田 真史	PT 部門コアスタッフ	オリンピック期間に 150～200 件/日、パラリンピック期間に 100～150 件/日、各国選手団に理学療法サービスを提供した。
鈴川 仁人	PT 部門コアスタッフ（パラのみ）	
来住野 麻美	PT 部門スタッフ（オリのみ）	



選手村総合診療所で活動した理学療法士



理学療法室入口（左から来住野 PT、塩田 PT）

(エ) オリンピック競技大会 競技会場における活動

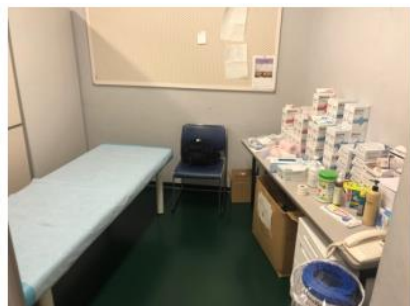
氏名	大会での役割	活動内容
中田 周兵	バスケットボール競技会場	各会場においてトレーナー活動ブースの設営や救急処置・搬送経路の確認、緊急搬送のシミュレーションや選手対応を行った。
青山 真希子	水泳競技会場	
小林 優里亜	体操競技会場	



競技会場で活動する PT（左から中田 PT、青山 PT、小林 PT）



救急処置と搬送経路の確認



トレーナーブース



救急搬送シミュレーション

(オ) オリンピック・パラリンピック競技大会 村外サポート拠点における活動

氏名	大会での役割	活動内容
松田 匠生・柴田 真子・田中 大夢 今 花夏・平山 公佑・櫻井 裕太 筒井 俊春・上村 杏菜・大平 葉奈 彼島 奈々・本間 友菜	村外サポート 拠点スタッフ	炭酸泉・交代浴の準備や物理療法機器の説明、利用選手・スタッフのサポートを行った。

(カ) オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会における活動

氏名	玉置 龍也
----	-------

2017年4月から大会期間までの準備期間については、医療サービス部職員として主に理学療法サービスに係る準備（提供方針・計画の策定、スタッフの採用・配置及び研修の計画・実施、関連機器、機材の調達、診療所設計への助言、上記に関する国際オリンピック委員会との調整等）を行った。またその他に、装具サービス事業者との調整・調達、選手村医療スタッフの採用及び研修の計画・実施、オンライン予約システムの構築・管理等にも携わった。

大会期間中については、選手村総合診療所 副チーフ理学療法士として理学療法部門及び活動するスタッフのマネジメントに従事した。

※ 診療実績は「(ウ) 選手村総合診療所における活動」を参照



オリンピック終了時の記念撮影

(理学療法サービスマネジメントチームと IOC チーフ理学療法士)

60年ぶりに東京で開催されたオリンピック・パラリンピック競技大会に、多くのスタッフが関わらせていただき大変貴重な経験をすることができた。この経験を横浜市スポーツ協会の事業や日頃の診療において横浜市民の皆様に還元していきたいと考える。

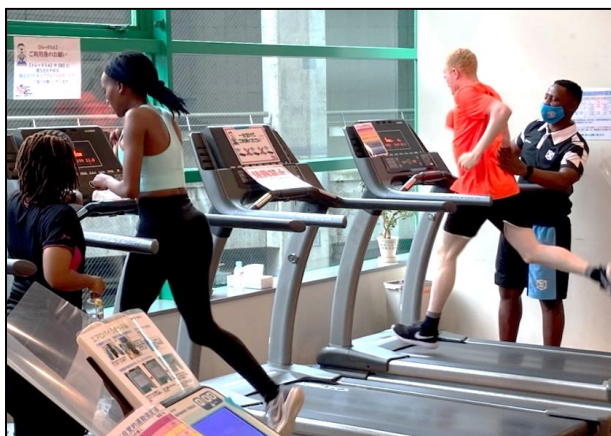
② 東京2020パラリンピック競技大会 ボツワナ共和国パラリンピック陸上競技代表チームへのトレーニング会場の提供

当センターは、ボツワナ共和国パラリンピック陸上競技代表チームの事前キャンプに、トレーニング会場を提供した。

選手の受入れにあたっては、「プレイブック」等に基づき、選手団の移動動線の確保や対応職員のPCR検査など感染症対策を徹底し、パラアスリートが安全・安心な環境でトレーニングを実施できるように配慮した。

(ア) 事前キャンプの実施概要

- トレーニング期間 2021年8月17日（火）～8月22日（日）
- 選手 2人 陸上競技400m 視覚障害 T13クラス
エドウィン・マスハ（男子）※写真右奥オレンジのTシャツ
グロリア・マジハ（女子）※写真手前グリーンのランニング



(イ) 選手団からのメッセージ

選手団長からは、「大変素晴らしい施設でした。機会があれば、また使わせていただきたい」と当センターでのトレーニングの感想をいただいた。



（手前左）エドウィン・マスハ選手（男子）

（手前右）グロリア・マジハ選手（女子）

横浜市スポーツ医科学センター年報 第 24 号

発 行 者 公益財団法人横浜市スポーツ協会
横浜市スポーツ医科学センター
〒222-0036 横浜市港北区小机町 3302-5
Tel:045-477-5050 (代表)

ホームページ <http://yspc-ysmc.jp/>

発 行 年 月 令和 4 年 6 月
